

# 甲南Today

2013 Sep NO. 44

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

甲南Today NO.44

## ONLY ONE vol.15

—個性を力へ—

「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者 平生飢三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園の光り輝いている学生・生徒をご紹介します。

### 競技成績が伸び悩んでいた時期に 発覚した病氣。

走るとすぐに息が上がり、しんどくなる。疲れがなかなか抜けない。濱田有香さんが体の異常に気づいたのは、1年次の11月ごろだった。「お医者さんに行ったら病氣だ。運動は禁物、最低半年はじっとしているように言われました」。

実は濱田さんはそのころ、思うように成績が伸びないために悩んでいた。ところが病氣がわかった途端、逆に気持ち吹っ切れた。「同期や先輩がみんな、待ってるでえって言うてくれました。それを聞いて何としても、もう一度走りたくなって思っただけです」。

休部中の半年間はきつかった。毎日、ただ大学に行っ

帰るだけ、アパートでじっとしていなければならぬ。アスリートにとっては何よりつらい状態だ。

「2年次の4月かな、初めてジョギングできたときは、うれしかったなあ。またトラックに戻ってこれたんだって思いましたね。それから少しずつ練習を再開したんです」。実際には結構なハイペースで、まわりが心配するほどだったという。ともあれ、見事に復活した濱田さんは、3年次では個人団体で国体出場を果たす。

### まさかのキャプテン就任、 ゼミでの経験も生かしリーダーシップを。

やがて次のキャプテンを決める時期。顧問の先生がリニアアップした候補から、同期で話し合っ

なった。リストを見て、誰より驚いたのは濱田さんだった。

「まさか自分の名前が挙がっているなんてでも、もし任せてもらえるんだら、がんばりたい」という気になりました。もちろんキャプテンは肉体的にも精神的にもしんどいでしょう。みんなも、病氣のことを気に付けてくれました。でも最後は自分の意志でやると決めました。キャプテンになりこれまで以上に積極的になつた。率先して自分の意見を伝え、問題が起こったときは先頭に立って処理する。

たとえば、部員の間でいろいろ意見が食い違ふときがある。そんなとき調整役を務めるのだ。異なる意見を冷静に受け止め、客観的に判断することは、すでにゼミで幾度となく経験していた。

「社会で課題と向き合っている企業の方々の意見は、本当に手厳しく、くじけそうになります。けれども、その分いろいろな面を鍛えられます」。所属する経営学部西村ゼミは、企業と連携するプロジェクトに積極的に、濱田さんも、大阪のオフィス街でビルの一室を使った癒しの空間を考えるプロジェクトに取り組んだ。「企業と利用者、双方の視点からメリット/デメリットを考慮し、センターションに備えました。しかし、企画に求められることの把握が甘く、企業の方からは、たくさんつまりました(笑)」。

クラブ活動で、残るビッグイベントは9月の全カレ(日本学生陸上競技対校選手権大会)。大会に向けて濱田さんは課題が2つあるという。

「まずキャプテンとしてチームを引っ張ること、さらにアスリートとしても集大成を図りたい。思いっきり風を切って走れたよ、すごく気持ち良かった、ありがとつて。先生やチームの仲間、お父さんお母さんからお世話になったみんなに、笑顔で報告したいんです。難病を克服した濱田さんなら、きっと、望みを叶えるはずだ」。



ゼミではプロジェクトで企業にプレゼンテーションする企画について、真剣な討論が続く。

～風を切って走る、みんなと一体になる～

## その心地良さが私の原動力

甲南大学 経営学部 4年次  
はまだ ゆか  
**濱田 有香**さん  
体育会陸上競技部女子キャプテンとしての仕事をメインにやり抜きながら、就職活動もがんばった。その結果、見事に採用を勝ち取っている。入社後はマーケティングの能力を生かして、企画の仕事にかかわっていきたくら考えている。

<特集>

甲南大学の被災地支援の今  
知能情報学部 前田多章准教授の取り組み

### 今、甲南ができること③

<特集>

岡本商店街の人々の被災地支援

旧知の友人を訪ねるようなボランティア  
気負わずに続けることが  
大切なんです



退任インタビュー  
最後の授業は、新たな冒険の始まり!?  
「『世界』の南里」の旅は続く  
南里章二 先生

アスリートとして、母として、  
しなやかに生き、高く跳ぶ  
世界陸上競技選手権大会 2013 モスクワ  
女子走り高跳び日本代表  
福本幸さん

教育と研究の関係を考える  
知能情報学部 知能情報学科  
田中雅博 教授

2013年9月30日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078-431-4341 (代)



世界に羽ばたき活躍する夢をかなえるために、University of British Columbiaで学ぶ甲南高校卒業生を紹介します。



子どものころからの夢、それは世界を飛び回ること。  
甲南での学びが、  
世界への翼を与えてくれた。

### 「『世界』の南里」の旅は続く。

最後の授業は、新たな冒険の始まり!?

長きにわたり生徒の好奇心を刺激し続けた甲南高等学校・中学校教諭「『世界』の南里」こと南里章二先生の、教育者としての信念や人生観、インディ・ジョーンズ顔負けの冒険を可能にした自然体の「哲学」に迫りました。



南里 章二 先生

退任インタビュー

### 成長記録



フロンティアサイエンス学部  
1期生2名の成長の記録。  
アルバム形式でご紹介します。

大学院生となったフロンティアサイエンス学部1期生お二人の成長記録。飛び級あり、成績最下位からの大逆転あり。等身大の成長ストーリーをお楽しみください。



### ◎平生日記

### クロッケーと平生家の人々

第一次大戦後には、避暑地として人気のあった六甲山への登山や、その山荘で興じるクロッケーなど、平生家の人々が過ごした余暇について経済学部 藤本建夫教授が言及します。

### 新任・退任教職員紹介

新たに着任、退任した教職員からのメッセージ。

### アスリートとして、 しなやかに生き、



### 母として、 高く跳ぶ。

### 世界陸上競技選手権大会 2013 モスクワ・女子走り高跳び日本代表

### 福本 幸さん

暑いこの夏をさらに熱く盛り上げた「世界陸上」に挑んだアスリートが甲南大学にいます。日本の女子走り高跳びの第一人者でありながら、温かい家庭を育む母として、また、社会人としてご活躍の福本幸さんです。走り高跳びとの出会いから世界への挑戦まで、アスリートとしての長いキャリアを振り返っていただきながら、お話をうかがいました。

### 岡本商店街の 人々の 被災地 支援

<特集>

旧知の友人を訪ねるようなボランティア。  
気負わずに続けることが  
大切なんです。

甲南大学が立地する「岡本」のまちにある、おしゃれで個性なお店が建ち並ぶ岡本商店街。その商店街の方々が、継続的に被災地を支援していることをご存知でしょうか。自らも被災した経験をふまえ、ゆっくりと友情を育むように支援されていらっしゃる3名のみなさんに、心温まる活動についてお話いただきました。



### 今甲南が できること Ⅲ

<特集>

甲南大学の被災地支援の今。  
神戸の震災体験で得た  
神経科学の知見を  
東北の支援に活かす。

東日本大震災から2年が経ち、復興期に差しかけた今だからこそできる支援活動。知能情報学部 前田多章准教授の「被災地に良質な睡眠を取り戻す」取り組みを紹介します。



# 甲南Today

from the editorial staff

No.44  
2013  
September

今号の見どころ

今もなお復興がままならぬ東日本大震災被災地支援の現状について、甲南大学教員や「岡本」の人々の取り組みをクローズアップします。ほかに、夏のモスクワ世界陸上で世界に挑んだ福本幸さんのご活躍の様子や、今年3月退任された「世界」の南里章二先生へのインタビューなど、盛りだくさんな内容でお届けします。

### KONAN FORUM 25

この秋に実施する「オール甲南の集い」のお知らせほか、体育会の輝かしい戦績や、教員と卒業生による新刊レビューなど盛りだくさん。

### ONLY ONE 裏表紙

難病に屈することなく、陸上競技やゼミの社会連携活動など大学生活を謳歌する学生を紹介します。



田中教授の好奇心と  
キャンパスロボットKOROROと  
学生のヤル気の

良い関係

教育と研究の関係を考える。

知能情報学部 知能情報学科  
田中 雅博 教授



学内を自由に動き回る自走ロボットKoRo(コロ)の研究と教授自身の好奇心によって、学生を刺激しヤル気をメキメキ伸ばす。自らの企業人としての経験もふまえて、学生の成長したいという意欲を、社会で通用する力の育成へと導く、田中雅博教授の教育論に焦点を当てました。





# 今、甲南が できること III



## 東日本大震災 甲南大学の 被災地支援の今。



阪神・淡路大震災で被災した当時の甲南大学

2011年3月、東北地方を巨大地震が襲いました。日本の歴史上、未曾有の被害を受けた人々を支援するうえで、最も大切なのは、息の長い取り組みです。被災地支援における継続性の重要さを誰よりもよくわかっているのが、阪神・淡路大震災の被災者となった神戸の人々でしょう。震災から2年が経ち、復興期に差しかかった今だからこそ、必要な支援策があります。適切なタイミングで支援に赴く神戸からのボランティアは、被災した方々から高い評価を得ています。甲南大学もまた、阪神・淡路大震災の当時、さまざまな温かい手を差し伸べていただき現在を迎えています。そんな体験をもつ本学ならではの被災地支援の取り組みを紹介します。

# 神戸の震災体験で得た 神経科学の知見を 東北の支援に活かす。

## 被災地神戸だからわかる タイミングに応じた支援策。

東日本大震災は、日本周辺における観測史上最大の規模となった。震災の爪痕は、現地では今もまったく消えていない。ところが、東北から遠く離れたところに暮らす人々にとっては、地震の記憶が少しずつ薄れ始めてはいないだろうか。

「巨大地震が起こった後の展開を、最もよ  
の調査・分析を行い、その結果至ったのが、睡眠指導による健康普及活動の有効性でした」と前田准教授は、震災支援活動に取り組むことになったキッカケを話してくれた。

## 大規模災害と 睡眠障害の関係。

「仮設住宅で暮らす人々たちによく見られるのが、多量の睡眠薬や精神安定剤の日常的な服用です。そもそも震災で受けたつらい思い出が残っているうえに、仮設住宅では隣の物音が気になるなど、眠りに関する環境は決して良いとはいえません。しかも、これまでの調査でわかったのが住宅内の光が及ぼす睡眠への悪影響です。」  
人は眠る前に青い光を浴びると、体内時計のリズムが崩れて寝つきにくくなる。良い眠りにつくためには、横になる3時間ぐらい前から蛍光灯の青い光ではなく、電球のようなオレンジ色の光に替えたほうが良い。できれば光量を徐々に落としていくと理想的だ。とはいえ、そこまですべてを仮設住宅で求めるのは難しい。そこでスムーズに睡眠に入るためのLED照明をアイリスオーヤマ(株)と共同で開発し仮設住宅へ導入することも、前田准教授の視野には入っている。



仮設住宅での活動の様子(尚綱学院大学様ご提供)

くわかつていいるのは、阪神・淡路大震災の被災者となった神戸の人たちでしょう。震災直後には、全国から一斉にさまざまな人が助けに来てくれます。非常にありがたいことで、この初期支援がないと被災者は立ち上がることはできません。ただ、時が経つにつれ、被災地のことや被災した人たちのことはあまり話題にならなくなっていく。しかし、被災地の大変さは、まだまだ続いているのです」と前田准教授は語る。

子どもの成育にも震災は影響を与える。18に驚くべき因果関係のあることもわかってきました。たとえば、これまでなら糖尿病にかかると、病気が原因となって睡眠障害を起しやすくなると考えられていました。ところが良質の睡眠を取れていないために糖尿病のリスクが高くなるケースがあるようなのです。だとすれば原因と結果の関係が以前考えられていたのとは、まったく逆になります。気分障害、いわゆるうつ病についても同様で、病気の結果、睡眠障害になるのではなく、睡眠障害がそうした病気の原因になる可能性が指摘されています。

であるならば、睡眠を改善すれば、震災による精神的ダメージから回復できる可能性も出てくる。そこで効果を発揮するのが「睡眠介入」である。質の良い睡眠をきちんと取るために、寝室の環境を整えたり、昼間の生活環境を整えるなどの手助けをするのだ。「睡眠リズムにも注意が必要です。睡眠にはノンレム睡眠とレム睡眠のサイクルがあることはよく知られていますが、眠りの深さにも一定のリズムがあるのです。深い睡眠を取っているときには、脳の扁桃体が休止します。これにより恐怖の記憶が消えるのです。逆に眠りが浅いままだと、怖い思いがいつもでも消えずに残ってしまいます」と前田准教授は睡眠の重要性を指摘する。

睡眠リズムが崩れるとホルモン分泌の異常が起こり、寝ている間ずっと成人病のような状態になったりもする。これが最悪の場合には心血管障害を引き起こすこともあるという。そこで前田准教授は被災地に向き、「実践活動として睡眠介入を行い、睡眠薬や精神安定剤に頼ることなく眠れる人を増やし、併せて集会や講演会で睡眠の重要性を説いていく」活動を始めています。「すでに何人かの方で睡眠改善がみられている。今後、睡眠介入を続けていくとともに、これらの効果を睡眠活動計により分析し、研究成果として発表する」予定だ。

年前に起こった阪神・淡路大震災の後に行われた疫学的調査の結果によれば、震災を受けた子どもたちには体重増減の異常が見られるという。神経科学を専門の一つとし、生活の有り様が脳に及ぼす影響と健康とのかわりに関心をもつ前田准教授は、阪神・淡路大震災以降、変化した生活環境や習慣と人の健康のかかわりについて、特に着目し追いつけている。

「身長伸びが抑制されたり、また体重の増減については増える子と減る子、いずれも平均からの差が激しいことが観察されています。その原因として睡眠が影響している可能性が高いのです。たとえば睡眠不足になると、成長ホルモンが適正に分泌・機能しなくなったり、食欲増進ホルモンのグレリンが過剰に分泌され、これらの結果、身長の増加が抑制されたり肥満となるのです」。

## 甲南大学ならではの 被災地支援の取り組み。

甲南大学からは多数の学生が、震災当初からボランティアとして東北に向かっている。阪神・淡路大震災の被災地で育った若者が多いからこそ、胸のうちに湧きあがる特別な思いがあるのだろう。大学サイドでも地域連携センター(KOREC)が中心となって、現地に向かう学生にバスを用意するなどの支援を行っている。

前田准教授はKORECの活動についても「大学からボランティアに出向いた学生たちは主に、現地で子どものサポートに取り組んでいます。とにかく一緒に遊ぶことで、子どもを元気にするのが目的です。子どもたちにとっては、遊ぶことが何よりの励みになりますからね。しかも、そうやって昼間しっかり体を動かして遊べば、夜もぐっすり眠れます」と期待を寄せている。7月21日に開催された東北甲南会(東北における甲南学園のOB会)で震災支援活動の紹介講演「ストレスによる発育発達の影響から子どもを守るために」阪神・淡路大震災から18年。子どもの発育に影響があったか」を行った。その際、KORECの活動を紹介し、東北甲南会からKORECの活動に対しても支援の申し出を得た。甲南大学の支援活動は、地震による被災を経験した甲南大学ならではの内容となりそう。

「子どもの発育を支援するには、私一人では荷が重い。臨床心理や発育発達を研究している教員も支援に賛同してくれているので、チームを組んで活動する予定です」。

宮城県名取市にある尚綱学院大学との連携による、睡眠指導活動も動き始めている。また、尚綱学院大学が活動している牡鹿半島産の海産物の販売支援に対しても、岡本商店



ができない状態が続いている。このことが睡眠の質を極度に劣化させ、発育に影響している可能性がある。

「神戸の被災体験を東北支援にどう活かせるのか、そして、南海トラフ地震など今後起こりうるだろう大規模災害の備えにどう活かしていくのか。そんなテーマで、これまでの大規模災害が子どもたちの発育発達に及ぼす影響

街で販売するために取り次ぐ試みも実を結びそう。

「被災地では、神戸からのボランティアに対する評価が驚くほど高いのです。神戸の人が来ると、みんなが明るくなるまで言ってくれます。震災直後には、わっと全国から支援が集まるけれど、しばらくすると火が消えたようになると寂しさを、最もよくわかっているのが私たち神戸の人間です。だからこそ、あの気持ちを東北の人々には絶対に味わせたくないのです」。

誰かが声を上げれば、各分野の研究者がすぐに集まるのは、大学の規模がコンパクトな甲南大学だからこそできること。横の連携を密に図った被災地支援は、質の高いものとなるはずだ。



知能情報学部 知能情報学科

前田多章 准教授

1999年慶應義塾大学医学研究科博士課程修了、医学博士(慶應義塾大学)。1999年甲南大学理学部経営理学科講師、2001年同大学院自然科学研究科情報システム科学専攻講師、2006年同学部情報システム工学科准教授、2008年知能情報学部准教授(現職)。



# 旧知の友人を 訪ねるようなボランティア。 気負わずに続けることが 大切なんです。



洗練されたブティックや雑貨店、おしゃれなカフェに老舗の名店、人気のレストランなど個性なお店が連なり、訪れる人々を常に魅了する岡本商店街。みなさんは、この活気ある商店街が東日本大震災の被災地・気仙沼を支援していることをご存知でしょうか。自らも被災した経験をふまえ、決して気負わず、無理せず、ゆっくりと友情を育むように続けられてきた支援のカタチ。あの日から何を考え、どのように行動してこられたのか。そして今、被災地の人々とともに、どのような未来を見つめているのか。岡本商店街振興組合副理事長の松田朗さんと、手紙を通じて被災者一人ひとりとの絆を深める「ツタエテガミプロジェクト」のお二人、稲富さんと早瀬さんにじっくりとお話を伺いました。

## 3.11

### 3月11日、 それぞれの場所で知った 東日本大震災。

**松田** 今日、あらためて東日本大震災からの歩みを振り返りましょう。2011年3月11日の午後2時46分、二人は震災の発生をどこで知ったの？

**稲富** 私は就職して2年目だったので勤務先で知りました。休憩時間にテレビの映像を見てことは失ったのを感じています。

**早瀬** 薬学部の学生として病院実習中でした。地震の瞬間は、「めまいかな」と思った程度だったんですが、実習後に携帯で情報に接して驚きました。松田さんは、そのとき、どこにいらしたんですか。

**松田** 僕は、岡本商店街加盟店向けに動画配信の講習会を開いていた。ツイキャス(Twit Casting)を利用して、ツイッターを使いながらiPhone®で動画配信ができる。そのことを店主のみさんに実演しながら説明しているときに、ツイッターのタイムラインに「揺れた！」「怖い！」というツイートが次から次に流れてきてね。僕自身は揺れを感じなかったんやけど、「これは、ただ事ではない！」と思ったな。

**早瀬** 当時、私は松田さんが経営する「アリオオ」でアルバイトをしていました。あの日以来、松田さんとは、本当にいろいろな話をさせていただきましたよ。

**松田** そうやったな。僕も「何かせな、あかん」と思ってた。次の日には、自宅や店でいろんな人たちと話し合いを始めたから。僕たちに何が出来るのか、何をすべきなのか。最初は、震災で「両親を亡くした遺児のみなさん」をこの地域で預かって育てられないか：など考えたんやけど、実際に家を用意しても東北から関西へ移り住むことに、僕たちが

が想像する以上に抵抗があることがわかって…。そこで、もう一度、考え直そうということになってね。



**早瀬** 私は、阪神・淡路大震災のとき、枚方市に住んでいたので直接被災してはいないんです。だから、大変なことが起きていることはわかって、具体的に何をすればいいのか本当にわからなかった。松田さんや松田さんの元に来る人々とお話することが、自分にできる支援を考えるきっかけになったと思います。

**稲富** 震災の日からしばらくして、私自身も岡本の雑貨店で働くことになり、松田さんや早瀬さん、岡本商店街のみなさんとの会話に参加するようになりました。早瀬さんとは、大学は違つたけれどカフェや雑貨店のお客さんとして顔見知りだったんですよ。だから、ごく自然に参加することができました。当時のことを振り返ると、それぞれが別の場所で東日本大震災を知り、岡本のまちに集うことによって支援が動きだしたように思います。

### 阪神・淡路大震災を 経験したからこそわかる 被災者のリアルな思い。

**松田** 僕は、阪神・淡路大震災を経験して

るから、3・11以降の報道は冷静に見ることができた。当時は、震災の2か月後に地下鉄サリン事件が起こり、世間の関心が一斉にオウム真理教に移ったからね。テレビのニュースも、新聞の見出しも、全部がサリン事件一色になってしまつて…。被災地の状況は何も変わらへんのにも、忘れられようとしていく。僕たち被災者は、このまま取り残されるんか：そんな危機感を抱いた。だから、「忘れないこと」「長く続けること」を大切にしたい。松田さん、そのために何を、どのようにすべきかをずっと考えていたな。

**早瀬** 6月に気仙沼を初めて訪ねることが決まると、松田さんは「何か一つ得意なことのある人、集まれ！」と明るく声をかけていましたよ。似顔絵が描ける人やシンガーソングライター、あとは占いや体操など。私はお手伝いぐらいしかできないけど、あ、そんな感じでいいなら行ってみようかと気持ち楽になったのを感じています。

**松田** ははは。そうやったな(笑)。あのときは、被災地と何度も行き来して友だちになろうと思っていたから。募金活動も悪いことじゃないけど、長続きさせへん。阪神・淡路大震災の経験から、そのことはもう、十分すぎるほどわかっていたからね。そやから、お金を集めて振り込むんじゃなくて、身の人間が行き来してつながりを深めよう、友だちになろう。そんなことしてたら5年や10年かかるかもしれへんけど、それでええやんと。長く続けるには、無理せえへんことが一番。気負つたらあかん。そう考えていたから先入観もたずに、みんなで行こうと呼びかけたんだと思う。現地に知人は一人もいてなかったけど(笑)。いや、ツイッターで知り合いになった人が一人だけいたかな？ いずれにしろ、あえて何のプランもたず、被災地をこの目で見て、何が出来るか考えようと思つてた。



### 被災地を訪ねて 見えてきた「手紙」という 支援のカタチ。

**早瀬** そうだったんですね。気仙沼を初めて

**稲富** 訪問先が気仙沼に決まったことには理由があったんですよ。震災後、ずっと自分たちに何が出来るか、岡本商店街のみなさんと考えてきたからね。その結果、被災地の商店街を、同じ商業者として支援しようというアイデアが生まれてきたわけ。岡本商店街の復興への道筋を伝えることによって、被災地のみなさんの役に立てるかもしれないと。それで、さっそく兵庫県の商業課に「同じような規模の商店街を紹介してください」と頼んだの。そしたら宮城県庁の方を紹介してくださつて、そこから気仙沼新中央商店会につながり、「じゃあ、バスで訪ねよう」ということになった。



訪ねたときのことを思い出すと、今でも涙が出るんです。もちろんテレビで被災地の状況には触れていたし、バスの車窓からも風景は見えましたが、実際に降り立ったときの感覚はまったく別のものだったから。津波で流された場所のあちらこちらに生活が営まれていた跡が残っている。それを実際にこの目で見て、「ああ、これは他人事じゃない」と思いました。

**稲富** 私も現地を訪れないとわからないことがあると実感しました。まち全体が、すべてなくなっている。そして、あの、魚が腐敗したような強烈な臭い……。この私にもやるべきことがある、と強く思いました。

**松田** 全国からの支援と被災地のニーズのミスマッチも見えたよね。もう6月だというのに避難所には、冬物衣料が積み上げられていて行き場を失っていたし。プライバシーのない避難所生活の不満もあちこちで耳にしたなあ。

**稲富** そうでした。私にとっては被災地に手紙を送る「ツタエガミプロジェクト」を始めるきっかけとなる出来事もあったんです。「NPO法人よろず相談室」の牧先生に、香川県の高松市が文通を通して阪神・淡路大震災の被災者を支援しているという話を聞かせていただいて……。それを聞いた瞬間、



**稲富** やはり松田さん自身の被災経験が基本のところにあるんでしょうか。

**松田** うん。僕自身、阪神・淡路大震災で働いていた店がなくなつて、紆余曲折を経て自分の店をもつ決心をした人間だからね。そんな挑戦ができたのも、お客さんたちの支えがあったから。岡本商店街は、建物の倒壊が比較的少なかったこともあるけど、個人商店が多かったこともあって、個人商店が多かったことも幸いしたと思うね。お客さんとのつながりを育みながら復興への道を歩めたからね。今は、そんな僕たちの経験を気仙沼新中央商店会のみなさんに伝えることが、商業者としての使命だと思ふようになった。被災地では、行政の支援を最大限活用することも大切だから、助成金の申請方法などもレクチャーしたり、つい先だっては、商工会議所青年部の記念式典で岡本商店街の事例をお話しさせてもらいました。神戸の復興にも成功例・失敗例があるから、すべてをフランクに伝えれば参考にしてもらえるんじゃないかな。

さつき話に出た気仙沼アンテナショップは、気仙沼の方言で「また来てね」という意味の「まただいいん」という名前でも今も続いているよね。経済産業局の助成事業としてスタートしたショップが岡本商店街に根付いたのも、このまちの人々が理解してくださったからこそ。やっぱり、人と人のつながりがすべての基本やと思うなあ。

### 甲南大学での学びと岡本の魅力の相乗効果を実感してほしい。

**稲富** そうですね。甲南大学生として過ごした4年間を振り返っても、人と人のつながりの大切さを実感します。岡本商店街には、いろいろなお店がありますが、どのお店

長い間、忘れていた記憶が蘇りました。私は、阪神・淡路大震災のとき小学校1年生だったんですが、翌年の夏に新潟県にホームステイさせてもらったんです。そのとき新潟でお世話になるお宅のお子さんが手紙を送ってくれ、「こんな遠くの人、心配してくれている」と感動しました。被災者だった自分が手紙によって励まされたことを何年かぶりに思い出して、手紙という支援の可能性に気づいたんです。

**早瀬** 気仙沼から戻ってからの体験を二人だけで終わらせたくないと言ったよね。**稲富** うん、そうだったね。そんなある日岡本のFARMHOUSE CAFEのオーナーが「じゃあ、うちで報告会を開いたら？」と提案してくださって。そして7月25日に気仙沼での活動の報告をすることになったんだよね。あのときは、松田さんにUstream配信してもらったり、甲南大学の学生さんに話をしてもらったりとみなさんに協力していただきました。「ツタエガミプロジェクト」の第1号となるポストを設けたのもこのときです。

**早瀬** 今でこそ、気仙沼で手紙を配ってくださる方も決まっていますが、最初は何かも手さぐりでした。牧先生に教えていただいた宛先に出した手紙のお返事も、まだ受け取っていませんでした。私たちの手紙が被災者の方に喜んでいただけているのか、重荷になっていないかと、半信半疑の状態でした。

**稲富** 被災者の方に初めてお返事をいただいたのは、確か8月だった？

**早瀬** うん、そうだったと思う。私たちの手紙をとて喜んでくださっていて、二人で感激したことを覚えています。

**稲富** 今も文通は続いていますし、仮設住宅に3回ほど会いに行きましたよね。遊びに行くたびに、実家に戻ったみたいにならなくていいかな、と聞いています。

**松田** ものを売るだけなら安く品ぞろえが豊富な大規模商業施設のほうが、ええかもしれへん。でも商店街は、人と人がつながる場所になる可能性を秘めていると思うね。僕たちも「岡本商店街の住民票をどう事業」とか、つながりを作るための、さまざまな取り組みを始めたところ。甲南大学の学生さんには、自分の家の延長のようにお店に来てほしいなあ。世代を超えた交流を通じて、さまざまな価値観にも触れてください。

**早瀬** 東日本大震災の後、ただ混乱していた私が、稲富さんとともに自分たちに続けられる支援「ツタエガミプロジェクト」を始められたのも、松田さんなど岡本商店街のみなさんや大学の垣根を越えた人々との交流があったから。岡本のまちが自分の可能性を広げてくれたと感じています。

**稲富** 大学に入学当時は、将来の方向性が明確でない人が多いと思うんです。私もそんな一人でした。そんなとき同年代の人とだけ接しているよりも、社会ですべて活躍している大人の方たちに話を聞いた方が、選択肢が広がる。就職活動にもきっと役に立つと思います。一人でも多くの学生さんに甲南大学と岡本のまちの相乗効果を体験してほしいですね。

してしまつて笑。

**早瀬** そうそう笑。初めてお会いしたときは、涙を流して喜んでくださって、こちらが恐縮したよね。そんなふうには手紙を喜んでいただけるという確信がもてたとき、「ツタエガミプロジェクト」は本格化しました。岡本を中心に甲子園のお店にもポストを置いていただくことも、全国からも手紙を受け付け、2か月に一度気仙沼へ送っています。

**稲富** 今は、気仙沼復興協会(KRA)の福祉部の方が、仮設住宅で開くお茶会の際に手紙を配ってくださっているんです。でも、本当に届けたいのはお茶会にも顔を出さない孤立した方々。震災後、仮設住宅の部屋に閉じこもり孤独を感じている方々に届ける方法を何とかして考えたいと思っています。**松田** ああ、それはいいことやね！手書きの手紙には、相手の心に響く力があると思うから。それに、お年寄りなどデジタルな情報が届かない方たちにも手紙なら届くしね。人と人が1対1でやりとりできるパーソナルなメディアだからこそ、可能性があると思うな。二人とも無理をせずに続けてください。

**稲富** ありがたうございます。手紙のやりとりを通じて私たちが、被災者の方々に支えられていると感じているんです。だからこそ、できるだけ長く続けたいですね。

**早瀬** 「ツタエガミプロジェクト」の参加者の方に、「返事はどのタイミングで出したらいいですか？」と質問されることが多いんですが、決まりやルールってないんです。1年に数回でもいいし、何なら年賀状だけでもいいと思います。無理せず、自分が楽しめる形で続けられるのが一番ですから。

### 岡本商店街のノウハウをすべて伝え、商業者を支援したい。

**稲富** 松田さんたち岡本商店街の方々も、気仙沼新中央商店会のみなさんとの関係を深めながら支援を続けてこられましたね。

**松田** うん、そうやね。2011年6月に初めて気仙沼を訪ね、その約4か月後の10月7日に3日間の予定で訪ねたの。確か稲富さん、早瀬さんも参加してくれたよね。あのときは家や店やパソコンを流されて通信回線を断られた方やそのスキルのない方々の情報発信を代行するのが目的やった。みんなパソコンを抱えて道行く人に突然声をかけて、「フェイスブックのアカウントをとりますよー」と呼びかけたりしたよね。びっくりした人もいたかもしれへんけど(笑)。でも、そうやってSNSを通じた交流をスタートしたおかげで、被災地のみなさん一人ひとりが何を考えているか、がわかるようになってきたよね。

**早瀬** 私たちが手紙のやりとりをしている方とお会いできたのも、このときだったんです。少しずつ、つながりを実感できるようになったころでした。そして翌年の2012年2月に、岡本商店街に期間限定の気仙沼アンテナショップがオープンしましたよね。

**松田** うん。さつき、「忘れないうこと、長く続けることを大切にしたい」と言っただけ、それって実際には難しいことなんよね。忘れないでおこう」とみんな口々に言うけれど、やっぱり人間は忘れてしまう生き物。そこから「忘れても続く支援の仕組み」を作りたいと考えていた。支援しているつもりはなくても東北の商品をいつも使っているとかね。気仙沼アンテナショップは、そんな考えから生まれた取り組みの一つやった。



東北 気仙沼と神戸 岡本をつなぐ温かいカタチ

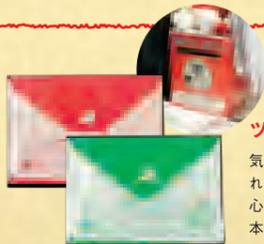
岡本商店街のホームページ  
<http://www.kobe-okamoto.or.jp/index.html>



気仙沼まただいいん

岡本商店街の一角にある気仙沼の名産が並ぶお店で、商品の購入を通して被災地が復興するまで支援することが目的。「まただいいん」とは気仙沼の方言で「また来てね」を意味する。お店には気仙沼からのスタッフが常駐している。

気仙沼まただいいんFacebook  
<https://www.facebook.com/matadain>



ツタエガミレターセットとポスト

気仙沼のクロマツとウミネコがデザインされたレターセット。受け取った人も書く人も心もむようにと作られた。受付ポストは岡本を中心に9か所に設置されている。

ツタエガミプロジェクト  
<http://tsuetaegami.blog.fc2.com/>



早瀬 友季子さん  
(はやせ ゆきこ)

2012年神戸薬科大学卒業。大学時代を岡本で過ごし、松田氏が経営するPizza Pasta & Wine「アリオリオ」でアルバイト。東日本大震災の発生後は、松田氏や岡本商店街の人々とともに気仙沼支援に取り組む。その後、「ツタエガミプロジェクト」を発足、現在に至る。ドラッグストアで薬剤師としても活躍中。

松田 朗さん  
(まつだ あきら)

岡本商店街振興組合副理事長、Pizza Pasta & Wine「アリオリオ」経営。阪神・淡路大震災によって勤務先を失うものの、4年の歳月を経て岡本に店舗を構える。現在は、商店街振興や被災地支援の中心的人物として活躍中。自家製パスタ・ピザとワイン、JAZZライブが評判の「アリオリオ」は、マスターである松田さんに会いたくて通う常連客も多い。

稲富 歩美さん  
(いなとみ あゆみ)

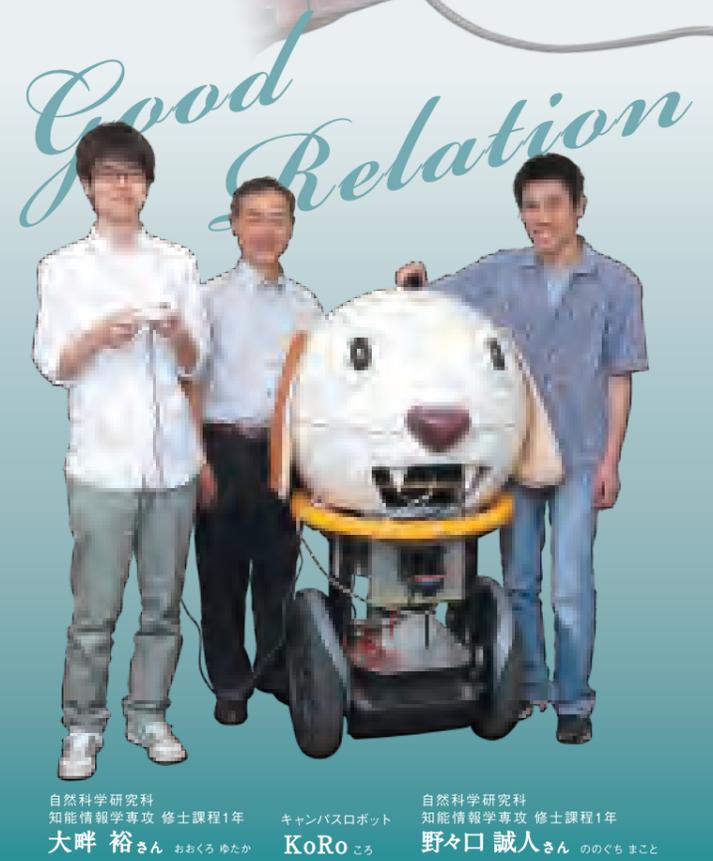
2010年甲南大学文学部日本語日本文学科卒業。カフェや雑貨店に勤務する傍ら、岡本商店街の気仙沼支援に参加。その後、自らの阪神・淡路大震災の経験をもとに「ツタエガミプロジェクト」を発足し、共同代表の早瀬さんとともに手紙のやりとりを通じて被災者支援を続ける。



田中教授の好奇心と  
キャンパスロボットKOROと  
学生のヤル気の

# 良い関係

リモコンなどで人が操作するロボットを作ること、自分自身で自由に動き回るロボットの開発では、難易度がまったく異なる。障害物などを認識し、進路を自分で判断して動くKOROのようなロボットの開発は、まさに至難の業である。あえてハイレベルなロボットKOROの開発に学生たちとともに取り組む田中教授のねらいは、どこにあるのか。答えは「学生を即戦力となるプロとして、社会に送り出すこと」であった。



自然科学研究科 知能情報学専攻 修士課程1年 大畔 裕さん おおくろ ゆたか  
キャンパスロボット Koro ころ  
自然科学研究科 知能情報学専攻 修士課程1年 野々口 誠人さん ののぐち まこと

## 学内を自由に動き回る 自走ロボットKORO。

「忠犬ハチ公モードや、桃太郎の犬モードは、実現できませんでした。次は、何とかして校舎内を自力で走れるようにしたいのです」と今後の抱負を語る田中教授、5年計画で他の研究室と共同で研究に取り組んでいる自走ロボットKOROの話である。忠犬ハチ公モードとは、駅の前で主人を見つけ、目標となる人物の後を追って動いたり、駅に自分で戻ること。今のところ、主人は赤い傘を差しているものとして、画像認識システムにより、赤い傘などをもった人を追いかけてKOROが動く。桃太郎の犬モードは、きびだんごをもらった犬が桃太郎について行ったように、人からKOROがきびだんご状の物体を受け取ると、その人物をカメラでとらえてついて行くプログラムだ。

最終的な目標は、キャンパス内で障害物を避けながら、人を他の物体と区別して判別し、個人認識も可能なら行いながら目的地に向かって自走できるようにして、サービロボットの可能性を探ること。そのカギとなるのがレーザー距離センサーだ。「レーザー距離センサーを使えば、障害物を見つけて、そこまでの距離を計測して衝突を避けることと、自分の現在位置を知ることができまう」と教授は説明する。レーザーを使った障害物の検知は理解できるが、現在位置をどうやって知るのだろうか。「あらかじめ校舎内の状況、建物の形などをスキャンし、マップデータとして登録しておくのです。その登録データとKOROが実際に現地で計測したデータを突き合わせることで、現在位置を把握します」。ロボットを自律的に動かすうえで重要な



課題となるのが、現在位置の把握である。位置情報ならGPSを使う手もあるが、建物に囲まれたキャンパス内となると、GPSでは誤差が大きすぎる。そこで事前にインプットしたマップデータと、レーザー距離センサーによりその場で測定したデータを照合しながら、自走するシステムが採用された。ただしKOROは二輪走行であり、動くときには胴体部分が前後に揺れる。この独特の動きが、

## 動かないロボットを いかに動くようにするか。

「KOROの開発は、かなり高度な研究になります。実際はもっと簡単なロボットでも、そ

う簡単には動きません。ロボットを動かすプログラム開発は、学生諸君にとって学びの絶好のチャンスとなるのです」。

と教授はその効用を語る。実質1年半ほどしか研究に費やす時間もなく、アルバイトや就職活動など勉強以外にもやることの多い学部生に対しては、自主性に任せるのが田中流だ。卒業論文においても、社会に出せる人材としてまともな文章が書けるようには指導するが、学会発表レベルなどのハードルは設定しない。

「とても面倒な過程ですが、自分が書いたプログラムを他人の目も交えて見返せば、必ず発見があるものです。そのため、この過程は意識的に厳しくやっています。とはいえ、うれしいのは、たいのい学生が趣旨をきちんと理解し、一生懸命に取り組んでくれることです」

「自分で問題点を見つけ、解決策を考える習慣を身につけること、研究に没頭した記憶が残ればそれで十分です。これが社会人になったときに必ず役に立ちますから」と語る田中教授、学部生に対する教育では、ほかにもいくつか心がけていることがある。

## 力を伸ばすために 必要な地力を養う。

ロボット研究に入る前段階として教授は、勉強に取り組む姿勢づくりに力を入れている。中でも重視しているのが、聞く力を養うことだ。

「講義を聞いているようで、実は聞けていない学生が多い。声は届いているのだが、その中身をきちんと理解できていない。相手が話している内容を把握できなければ、噛み合った対話など不可能です。そんな状態では就職活動はもとより、社会においても良好なコミュニケーションを図れないでしょう」。

そこで教授は、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングに関して日本語と英語ともに、自分に欠けている部分を学生に自己申告させる。続いて半年間の改善計画を出させたうえで、6か月後にその成果をきっちりチェックする。研究に入る前に、田中ゼミでは社会人としてやっていくための地力を養うのである。

田中教授は大学院修士課程を修了した後、一時企業で働いた経験がある。だから、組織人

として働くうえで求められる能力もよくわかっていて、「会社勤めをしているときに得た、いちばんの教えが、今やる」ことです。学生諸君はみんな、自分が成長したいと思っています。その気持ちは痛いほどわかる。でも、そのためにいつから自分を変えていくの、と聞けば、そのうちにやりますと答える。それじゃだめなんだ。思い立ったそのとき、今やらなければ」。すぐに動くために田中教授は1週間ルールを徹底している。学生が何か課題を挙げれば、必ず「来週までに、どこまでやってくるの」と問う。

## 進路は多様、自分に合った 道を進んでほしい。

「院生には毎日、朝9時から夕方まで研究室でみっちり研究することを求めます。院生ともなれば、しっかりと力をつけて、何かに訴えるものを持たなければなりません。そうじゃないと就職もおぼつかないでしょう。大学院を修了するときには全国レベルで戦えるよう鍛えることが、私の役目だと心得ています」。学部生に求めるのが、とにかく動くロボットを作るレベルなら、院生に求めるのは、KOROを自由に操れるだけの力である。

ロボット製作では、プログラミングからシステム開発に至るさまざまな能力が鍛えられる。そう簡単には動いてくれないロボット

を、動かす過程では、考え抜く力と粘り強さが養われる。「大学院生はもちろんです。学部生にしても卒業時には、プログラマーやSEとして一級の人材と認められるだけの力を付けてあげたい。そのためには、あえて厳しい課題に挑戦させることも私の義務と心得ています」と教授は結んだ。



知能情報学部 知能情報学科  
たなか まさひろ  
**田中 雅博 教授**  
1956年山口県山口市生まれ。1979年京都大学工学部卒業。1981年同大学院工学研究科理工学修士課程修了後、(株)鳥津製作所入社。1983年滋賀大学経済短期大学部助手、助教を経て、1988年から1年半オーストリアのIIASA(国際応用システム解析研究所)研究員、1990年京都大学工学博士、岡山大学工学部情報工学科助教授、1999年甲南大学理学部経営学教授、理工学部情報システム工学科教授を経て2008年より現職。2012年より図書館長として、全学の学生の教育環境整備にもかかわっている。  
教授が最近没頭しているのが、距離センサーを応用した「安全歩行サポートシステム」だ。目の不自由な人が街を安全に歩けるよう、進行先に障害物があると音で警告してくれる。段階の段差まで識別できるシステムは、特許出願中である。



# Miyuki 福本 幸 Fukumoto

世界陸上競技選手権大会 2013モスクワ・女子走り高跳び日本代表

## アスリートとして、母として、 しなやかに生き、高く跳ぶ。

女子走り高跳びの第一人者 福本幸さん。今年8月のモスクワ世界陸上競技選手権大会では、勝負に挑む福本さんをスタンドから見守るご主人と3歳の娘さんの愛らしい姿が多くの人々の心をとらえました。福本さんは、現在36歳。アスリートとしては決して若いとはいえない年齢にありながら、今年4月には豪州オープン選手権大会で1m92cmという自己ベストタイ記録を出し、見事、優勝。モスクワでこそ予選敗退という結果に終わりましたが、結婚・出産後も女性アスリートが第一線で活躍できることを、その成績によって常に証明してきた先駆者的存在です。ところでみなさんは、そんな福本さんが甲南大学文学部の卒業生であることをご存知でしょうか。現在は甲南学園スポーツ強化支援室に籍を置きつつ非常勤講師として体育の授業を担当、また、陸上競技部のコーチとしても活躍しておられます。多忙な日々を過ごす福本さんに、アスリートとしての歩みやオフの過ごし方などについて、じっくりとお話をうかがいました。

軽い気持ちで陸上競技部へ。

自分が「勝てる」なんて想像もしていなかった。

陸上競技を始めたのは、中学に入学してからです。当時、クラブの名称が「陸上水泳部」だったので「あ、こなら水泳も陸上もできる!」と気楽に考えたことがすべての始まりでした(笑)。小学生のころ、週に2回スイミングスクールに通っていたため水泳は得意でしたし、足も速いほうだったので簡単に入部を決めたんです。ところが、いざ、入ってみると部員数は多いし、先生の指導も熱心でびっくり!入部直後にさまざまな種目にトライさせてもらって、その結果をもとに、走り高跳びを練習するようになりました。

このように軽い気持ちで始めた走り高跳びですが、幼いころを振り返ってみると、やっぱりジャンプが好きなお子どもだったなあと思います。友だちと夢中になってゴム跳びをして遊んで

いましたし、高い天井や木の枝を見て「届きそうだな」と思うと跳び上がらずにいられない(笑)。中学時代の先生は、私のそんな資質を見抜いてくださったのかもしれませんが。

入部後、大阪市内のブロック別大会に出場して優勝したときには、「え?!私か?!」と心底、驚きました。信じられないかもしれないかもしれませんが、当時はまだ、試合のルールもすっかりと理解していませんでした。顧問の先生は水泳が専門の方でしたから、走り高跳びについてはあまり詳しくなかったんですね。ですから、試合に出場しても「3回跳べるんだっつたら、できるだけ多く跳ぼう!」なんてのんきに考えていました。ところが、ある試合で同点優勝だと思っていたところ2位に終わってしまい、そのとき、初めて「同記録となった場合は、試技回数の少ない方が上位になる」というルールを知ったんです。遅ればせながら「よし。次からは必ず1回で跳ぼう!」と心に誓ったのを覚えています。万事、そんな感じののんびりしていましたから、まさか自分が他の人より高く跳べるなんて想像もしていませんでした。その後、貧血で練習ができないう時期もありましたが休養を経て復帰。中学3年生のときには、大阪府の中学生記録を出し、全日本中学校陸上競技選手権大会でも1m73cmを出して、全国優勝することができました。高校は体育科に進学しました。中学とは違って同級生の意識が高く、「全国優勝をねらうのは当たり前」といった雰囲気を感じました。目標に向かってコツコツと努力する友人たちを見て「私も勝つためには勝つだけのことはしないとダメだ」と身が引き締まる思いでした。

夢はバティシエ。インドア派女子が、  
走り高跳びへの愛に目覚める。

意外に思われるかもしれませんが、高校生のとき、バティシエになりました。友達とお茶を飲みながら、おしゃべりすることも大好きなんです。ですから、漠然と「卒業したら、走り高跳びはやめよう」なんて思っていました。しかし、顧問の先生に「もう少し陸上を続けよう」と言われ、大学でも続けることを決め、家から通える甲南大学に進みました。甲南大学入学後はのんびりやろうという気持ちでいましたが、阪神・淡路大震災も重なり、5月の試合に出場できるような練習は積めていませんでした。試合に出られる準備ができていなかったため、監督に

「まだ出場は厳しいです」と伝えると、「出るだけ出てみなさい」と言われ、しぶしぶ関西インカレに出場しました。 कारणとして優勝はできましたが、記録は1m68cm。高校時代の自己ベストが1m81cmでしたから、中学時代より跳べない自分がガッカリしました。これはまずいなと思い、跳べるように努力しようとする練習をするようになりました。すると跳べるようになり、体重も落とすことができたのです。

きちんとやれば跳べる、自分のために頑張ろうと思っただけでなく楽しくなって、自分にとって高跳びが大事だと大学1年生で再確認しました。当時、陸上競技部には日本の短距離界をリードする小島初佳先輩がいらっしやいました。見習うべき先輩が近くにいることが、何より大きな励みになりました。さらに「陸上が好きだから、真剣に楽しむ」という人や、「自分はトップをめざさなくていい」という友人など、一人ひとりがさまざまな思いで練習していることを知り、目の前の霧がパッと晴れるような感覚を覚えたんです。私みたいにトップをめざす人ばかりじゃない。勝ちたいと思っている人もいれば、そうじゃない人もいる。「めざす」「めざさない」か、どちらが正しいわけではないけれど、その価値観の違いが大きいことに気づいたんです。また、英語英米文学科の友人たちとの交流も大きな刺激になりました。留学を視野に入れて勉強している人や、他の分野に興味のある人と語り合ううちに「いろいろな人がいて、みんなそれぞれ充実している」ことを知りました。そうすると不思議なことに自分の心もはつきりが見えてきたんです。「私は走り高跳びが好きだ」と。「私は、どんなことよりも走り高跳びがしたい」と。

今でも覚えているのは、1年生のときの英会話テストで自分の夢を語ったことと、私に、迷うことなく「走り高跳びでオリンピックに出場したい」と英語でスピーチしました。そんな私を学科の友人たちも応援してくれて、お互いの価値観を認め合いながら陸上を優先に考え、充実した大学生活を過ごしました。

### 五輪出場の夢と教員の責任のほどまで手にしたもの、逃したものの。

就職を考え始める大学3年生のとき、「走り高跳びをもっと理論的に勉強したい」と思うようになりました。中学時代から一流選手の映像を見たり、本を読んだりしながら手さぐりで学んできただけに、専門知識の必要性を痛感していたんです。その前年、

が多いですが、私たちは、まだまだ「結婚は、引退後にするもの」という意識が強い世代。私も2007年の世界陸上を最後に引退しようと考えていたので、その翌年、結婚に踏み切ったんです。ところが主人(福本義永氏、京都陸上競技協会所属)も走り高跳びの現役選手なので、結婚後の生活に思ったほどの大きな変化はありませんでした。「これならまだ続けられるかも」と思い始めた私に、彼も「やる間は、やったら？」と背中を押してくれました。主人のその一言がなければ、きつと引退していたと思います。

出産を決めたときは、現役を続ける限り結果を出そうと心に誓っていました。それができなかつたら後に続く世代が、「やっぱり子どもを産んだらダメだ」と考えてしまうのではないかと思いました。女性競技者の先輩として、責任を感じていました。私自身20代だったころに、30歳を超えても競技を続けている先輩たちの姿を見て「かっこいいな」と憧れました。今では30歳でも「まだまだやれるよ」と言われますが、かつてはそうではなかった。先輩たちは「その年齢じゃ無理」という周囲の厳しい視線と戦ってきたと思います。その一方で世界に視野を広げれば、子どもを育てながら40歳近くまでトップであり続ける外国人選手は決して珍しくありません。それなら日本人にだってできるはずはない。結婚・出産しても第一線で勝負できることを自分の成績を通じて証明しようと思いました。

幸運なことに、そのころ、甲南大学で指導されている伊東浩司准教授(男子100m日本記録保持者/現 日本陸上競技連盟強化委員会男子短距離部長)に「母校に戻ってコーチをしてみたい」とお声をかけていただきました。おかげで出産直後から、大学で働きながら陸上に専念できる環境のもと、競技と育児を両立できるようになったのです。3か月後の全日本実業団対抗選手権では1m78cmを跳んで第一線に復帰しました。後になって思えば、3か月という短期間で体を無理やり戻す必要もなかったのかも知れません。出産後1年ほどで自然に戻ることもなかったもので、これから出産する後輩たちには「そんなにあわてなくていいよ」とアドバイスしてあげたいですね。

## 福本 幸さん(ふくもと みゆき)

1977年、大阪府出身。大阪市立淀中学校に入学後、陸上競技を始めると瞬く間に頭角を現す。中学・高校は周囲の期待が先行していたが、甲南大学文学部に進学後、自分の意志で積極的に練習に取り組むようになった。中京女子大学(現 至学館大学)大学院修了後、中学校教員として働き始めた2年目の2004年には1m92cmの自己ベストを記録し、アテネ五輪の参加B標準をクリア。惜しくも出場を逃したものの結婚、出産を経て2013年には再び1m92cmの自己タイを記録し、モスクワ世界陸上競技選手権大会に出場を果たす。3歳の娘さんを育てる1児の母でもある。



写真提供:月刊陸上競技

日本陸上競技連盟の強化合宿に参加し、オーストラリアで世界のトップ選手のトレーニングに触れたことも刺激になりました。いろいろ考えた末に中京女子大学(現 至学館大学)大学院に進学。大学院時代も競技は続け、全日本インカレで2度優勝することができました。

大学院修了後は、大阪・吹田市で中学校教員として働き始めました。当時は、同僚の先生に「いつ練習しているの?」と尋ねられるほど忙しい日々。クラス担任、陸上部の顧問、体育大会の運営など目が回るような毎日でした。実際、練習をする時間はほとんどなかったですね。帰宅してからランニングをして補強運動を少しする程度。生徒の試合がない日に開催される記録会を見つけては出場して跳躍し、公認記録を残していました。何だか、こんなふうには話すとマイナス面ばかりのようですが、決してそんなことはないんですよ。陸上部の生徒たちを同志のように感じていましたから、彼らの手前、いかげんな記録は残せない。少しでも悪い結果を出すと「先生、負けるん?」とビシッと言われてしまいますから(笑)。また、「生徒一人ひとりがパフォーマンスを最大限発揮できるようにするには、どうすればよいか」。指導者の視点で考えるうちに自分自身の競技も客観的に見つめられるようになりました。2004年には、好調だったにもかかわらずアテネオリンピックの選考会で結果が出せず出場を逃しましたが、1週間後の大阪府選手権で自己ベストを更新する1m92cmを記録。2007年には、大阪で開催された世界選手権にも出場しました。

しかし2008年は、クラス担任や陸上部顧問に加えて新任教員の研修など、これまで以上に仕事が忙しく北京オリンピック出場を考えられる状態ではありませんでした。競技者として逃した夢は大きかったと思いますが、自分が選んだ道です。悔いはありません。中学教員としての毎日は、今、振り返っても本当に充実していました。先だつての世界選手権のときも、当時の生徒や保護者の方々、先生方から数えきれないほどの応援や励ましのメールをもらったんです。あのとき、あの場所からこそ出会えた人々に心から感謝しています。

### オフの充実がパワーに。休日は、子どもと遊び、ママ友とおしゃべりも。

2008年2月、31歳のときに結婚し、その2年後に出産しました。世界の女性アスリートには結婚・出産後も現役を続けている人

### たかが陸上。されど陸上。少し先の目標を見つめてチャレンジを続けたい。

甲南大学では、スポーツ強化支援室での勤務を基本に、非常勤講師として授業を担当し、陸上競技部のコーチもしています。陸上だけに専念するのでなくスポーツ強化支援室にも籍を置いているおかげで、甲南中・高・大のスポーツ面での躍進を肌で感じられて楽しいですね。ただ、体育系大学に比べてスポーツ心理学などの知識が少ないのは否めませんから、できるだけ自身の経験を生かしたアドバイスをするようにしています。国際試合の経験をもとに、練習で求められる集中力や勝利にかける思い、プライドをもつことの大切さなどを教えることがたくさんあるんです。それと同時に「たかが陸上」という意識も忘れてほしくないと思っています。競技だけに夢中になり人間的に未熟なままだと、「陸上をやめたらイヤな人間」になってしまうでしょう。だから「たかが陸上」でも、私にとっては何よりも大切」と伝え、学生のみならずにも人間的に成長してほしいと願っています。

8月のモスクワ世界陸上競技選手権大会では、みなさんの期待に応えることができず、申し訳ない思いでいっぱいでした。その4か月前の豪州オープン選手権大会で9年前の自己記録に並ぶ1m92cmを出し、日本選手権でも1m90cmを跳ぶなど大変に調子がよかったです。モスクワでの記録更新をねらっていました。ところが、競技場の質が日本とはまったく異なり、タイミングが最後まで合わなかった。ヨーロッパ遠征などの経験をもっと多く積んでいけば、結果は違っていたかもしれません。が、それも含めて私の実力です。試合終了後は、何も考えられない状態でしたが、時間が経つにつれ、結果は結果として受けとめつつも、やれるだけのことはやったと考えられるようになりました。来年はアジア大会があり、その後、世界陸上、オリンピックと続きます。もう若くないので1年1年、そのときの自分の状態と相談しながら目標を定めて競技を続けるか向き合っています。夫は同じ競技者として応援してくれています。娘はお母さんと遊びたいから「もう、やめてもいいよ」と言うんです(笑)。たかが走り高跳び、でも大好きな走り高跳び。自分が納得できるまで楽しみながら続けたいと思います。

# 最後の授業は、新たな冒険の始まり!?

# 『世界』の南里』の旅は続く。

193か国をめぐる体験をもとに行うユニークな授業で知られる甲南高等学校・中学校の南里章二先生。定年退職を迎えた今年3月1日、多くの人々の要望に応じて「最後の授業」が一般公開されました。40年の長きにわたり生徒たちを魅了し、好奇心を刺激し続けた『世界』の南里』は、最後の授業にどんなメッセージを込めたのか。教育者としての信念や人生観、将来、ビジョンなどについても語っていただきながら、インディ・ジョーンズ顔負けの冒険を可能にした自然体の「哲学」に迫りました。

記念すべき日に選んだテーマは、「サハラ砂漠の北と南」。

その日、甲南高校の大教室は、「最後の授業」に詰めかけた人々の熱気に包まれていました。新聞各紙が報じた「名物先生『世界の南里』最後の授業を一般公開」の知らせに、各地から大勢の人々が駆けつけたのです。そこには在校生やその保護者、一般の歴史ファンに交じって240

の席のあちこちで熱心に見つめる、かつての教え子たちの姿もありました。記念すべき授業のために南里

先生が選んだテーマは、「サハラ砂漠の北と南」。このテーマに込めた思いを尋ねると、「最後の授業は、自分が最も力を入れて研究してきたアフリカについて語りた」と思いました。想像を超える多様な文化と歴史に衝撃を受けて以来、もう20回以上も旅しています。1986年には、北部のアラブ世界と内陸部の黒人世界との交易の歴史を探るために1年間留学し、サハラ砂漠をランドクルーザーで疾走しました。ステレオタイプで報道されることの多いアフリカだけに、ありのままの姿を知ってほしいのです」。

今年1月に起きたアルジェリア人質拘束事件の背景やフランスが軍事介入したマリ、の歴史的背景などを、ビデオやスライドを用いながら語る先生。全員が熱心に聞き入る中、授業の終わりを告げる



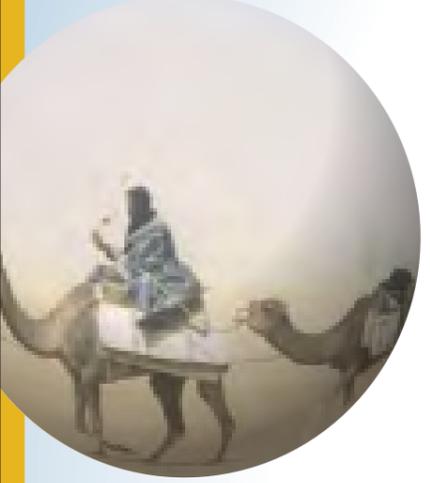
「生まれ変わっても、もう一度、甲南高校に通って南里先生の授業を受けたい」と言ってくれました。うれしかったですね。教師冥利に尽きる言葉だと思いました」。

先生自身も甲南高校の学生だったころ、すばらしい先生方に恵まれたそうです。休日には自宅を訪ね、ニーチェの『悲劇の誕生』を原書で読む先生の傍らで、その翻訳本を熱心に読みふけた日々。『世界史の教師をしながら193か国を訪ねることができたのも、甲南だからこそ可能だったと思います。自由を尊重する甲南の雰囲気、南里先生の個性を育み、夢の実現を後押ししたことは間違いなさそうです」。



「自分の知らない世界のことを、さも知っているように教えることが耐えられなくて、夏休みに欧州10か国の旅を敢行。以来40年間、休暇を利用して毎年、海外の都市や辺境を訪れてきました。アフリカ南部ボツワナの国境付近でゲリラと間違われてライフルを向けられたり、ライオンに襲われそうになったりと命の危険にさらされた経験は数知れず。そんな過酷な状況からの生還を支えたものは、一体何だったのでしょうか。先生独自のサバイバル術を尋ねると、返ってきたのは「時間も体力とお金だといわれていますが、それ以上に大切なものがあります。人生の経験です。日々の生活を通じて培った知恵や機転、礼儀などを状況に応じて発揮することが大切なのです」。

40年の歳月を経て、少しずつ変化してきたという先生の旅。そこにはもう、かつての気負いはありません。「今は、若いころと違って行き先はどこでもいい(笑)。どこに行っても発見がありますから。旅の面白さは、人生との相乗効果にあり



甲南の自由な雰囲気、夢を実現する原点に。

南里先生は授業の中で、しばしばハイリッヒ・シュリーマンに触れてきました。ギリシャ神話に登場する伝説上の都市・トロイアを発掘したドイツの考古学者の姿に、夢を実現するすばらしさを学んでほしいと考えたからです。しかし、「教師が夢の大切さを説くと生徒たちは必ず『じゃあ、先生には夢があるのか』と問い返してきます。口には出さなくても視線がそう語っているのです。若い人に夢を語るには、まず自分に夢がなければなりません。いつもそのことを肝に銘じてきました。ですから私は、『子どものころの夢は、世界の国すべてを訪ねることだった。それを実現したよ』と語ってきたのです。一昨年、一人の卒業生と会う機会がありました。若いころの教え子でしたが、から兄弟のように接していたのですが、

旅は人生との相乗効果。どちらも深まるから面白い。

南里先生は、小学校低学年のころから地図ばかり眺めていたそうです。「いつか

旅だけが冒険じゃない。人生そのものが冒険だ。

退職後も複数のカルチャースクールで教壇に立ち、講演、執筆にと多忙な日々を過ごしている先生。「冒険をテーマに語ってください」と依頼されることも多いのだとか。もちろん冒険エピソードには事欠かない先生ではあるものの「旅だけが冒険ではありません。人生にも冒険はいくらでもある。その一つ一つを乗り越えることが生きがいであり、人生の喜びなのではないでしょうか」と私たちに疑問も投げかけます。また昨今、必要性が叫ばれるグローバル人材の育成につい



南里 章二先生(なんり しょうじ)  
旅行家、登山家。甲南大学大学院人文科学研究科修士課程修了。2013年3月まで甲南高等学校・中学校世界史教諭。世界のすべての独立国を旅した体験をもとに写真やスライドを使って行う授業は、甲南高等学校・中学校の名物授業として学生たちの人気と信望を集めた。現在は、各地での講演やNHK文化センターなどの講師としても活躍。著書に『全世界紀行一民族と歴史、そして冒険』(ナカニシヤ出版)。

شورج نازج



なんり しょうじ 南里 章二先生

# 子どものころからの夢、それは世界を飛び回ること。 甲南での学びが、世界への翼を与えてくれた。

キッカケは、中学時代の友だちのお父さん。国連職員として世界を駆け巡る姿に「カッコいい!」と憧れたのだ。いつか自分もグローバルに活躍できる人になりたい。今カナダで、そんな夢への第一歩を踏み出した。

## 世界を飛び回る仕事に就きたい。

「国連職員になりたい。あるいはグローバル企業に就職して、世界中を飛び回って働いてみたいんです」と夢を語る安部遼さん(2012年3月甲南高校卒業)は、現在UBC(University of British Columbia)の1年生。インターナショナルスクール時代の友だちから、彼のお父さんが世界を舞台に精力的に仕事をする話を聞いてとても憧れた。自分も将来は、グローバルに活躍し、世界のために貢献できる人間になりたい。そのため、将来、海外の大学に進むべきだ。そう考えてグローバル・スタディ・プログラムが充実している甲南高校に進んだ。高3の2年間をかけて、英会話、英文読解、英



安部 遼さん  
甲南高等学校 2012年3月卒業

作文をはじめ、日本も含めた世界の歴史や文化、経済を学び、じっくりと国際コミュニケーション能力を高めてくれるプログラムがある。ここが、僕の夢を叶える場所だ。確信しました。

## 留学でふくらんだ憧れ、授業で培った実力。

2011年1月、高2のときに安部さんは、カナダ・バンクーバーにあるバーナビームウンテン高校に留学する。現地校への語学留学期間は原則1年となるが、甲南高校は特別提携を結んでいるため3か月の短期留学が可能である。「留学中にUBCを見に行きました。まだ全体が、丸々大学みたいなスケールにはたまげました。こんなところで学びたいと強く思いました。」

モチベーションの高まった安部さんは帰国後、猛勉強に励む。とにかく英語力を鍛える! TOEFL® 120点中90点以上を取らなければ、まず願書を受け付けてもらえない。先生とのマンツーマン特訓によって、このハードルを見事にクリア。志望動機をアピールする願書も、ネイティブ・スピーカーの先生からきめ細かな指導を受けてきつちりと仕上げた。「おかげで奇跡的に合格できました。後で聞

くとUBCはカナダではもとより、世界の大学ランキングでも上位に入るような大学だとか。自分がそんな大学に入れたなんて、うびつくりです。」

## 勉強の厳しさとおもしろさを知った。

海外の大学の授業について行くためには、とんでもないペースで本を読まなければならぬ。これに備えて安部さんは、合格が決まってから、カナダの高校生が読む本などを先生に指導してもらい、万全に準備したつもりでいた。

「想像をはるかに超えていました。最初の授業で、1週間後までに300ページ読んでくるようになどと言われるんです。冗談じゃないと思うけれど、読んで行かないと授業についていけない。もう必死です(笑)」。

大学ではさつそく新たな学びがあった。歴史の授業で1930年から戦後にかけての出来事の意味を深く解説してもらい、新しい視点を得たのだ。

「将来に備えてPolitical Scienceを履修したら、これが結構難しくて。でも、今までに学んだことのないテーマだから刺激的です」と笑顔で話す安部さん、その瞳には既に、世界で活躍する未来の自分の姿が映っているようにも見える。

※いくつかの機関からランキングが発表されているが、「World University Ranking 2012・2013(出典: Times Higher Education)」によると、UBCは世界30位にランキングされている。

# 平生鈞三郎日記刊行記念シリーズ クロツケーと平生家の人々

平生鈞三郎日記刊行記念シリーズ

## 六甲山に山荘を購入

六甲山は人気ある有数の都市型避暑地として知られ、高度成長期からバブル経済期にかけてはまさにうなぎ上りの盛況であった。神戸市内などから簡単にのぼれ、しかも涼と景観を同時に楽しめる六甲山は、実はすでに第一次大戦後あたりから一躍人気の的になっていた。平生鈞三郎は大正12年8月12日の日記に、「夏に入りて日曜日の登山者は多きときは4千人に達すと。登山熱の熾なりしを以て証すべし」と記している。ちなみに大正末から昭和にかけて表・裏六甲に2本の自動車道が開通し、ブームはいつそう高まっていく。

その六甲山に平生は別荘を持っていた。これは元は桃山中学校長ローリングの所有だったものを平生が夏場の避暑地として、また登山のために手に入れたもので、その購入を決めた大正9年10月10日の日記によると、山荘はほとんど「廃屋」同然であった。これに手を加えて落成したのは翌10年5月22日、以後彼は自由な時間さえあればこの山荘に泊って英気を養った。

## 経済学部教授 藤本 建夫

## 平生のスピード登山

平生の山荘行で面白いのは何分かつたのかを非常に気にかけていたことである。平生が初めて登ったときは心臓の鼓動が激しく、途中でへたり込む状況であったが、山荘が出来てからの平生の体力は登山によってみるみる向上し、阪急六甲駅から山荘まで上りは1時間40分前後(最速で1時間20分)で、また降りも50分くらいで駆け下りることができるようになる。若者でも籠で六甲山にのぼる人々が増えてきていた中で、このスピード登山は彼の自慢であった。

## クロツケーを楽しむ平生家

平生がこの山荘で最も愛し熱中したのはクロツケー(共通の語源をもつがクリケットは別のスポーツ)であった。この競技は日本のゲートボールと似ていて、13〜14世紀、南フランスの農民たちの遊びに起源をもち、17世紀後半にイギリスに伝えられ、19世紀中ごろにはアングロサクソン諸国で爆発的に流行する。その人

気秘密は男女ペアでプレイすることができたからであったが、ロケットニスの登場とともにあつと言間に衰退していった。日本には1878年に「循環球」の名で紹介される。1885年に出版された『戸外遊戯法』にはクロツケーが「戸外の遊戯の最良の地位を占め」ているが、それは「男女相俦に遊戯」できるからであると記されている。

技量に乏しい母の球をヒットするに忍びず、わざと外しているのかもしれない。これは敵同士とは言え我子の「正確なる打撃を喜ぶ母と、たとへ実子といへども之を敵視」する父とは三郎の心中においても感情を異にするのかと思わざるを得ないと(大正14年9月3日)。

平生家の人々が六甲山の山荘で興じたクロツケーは、戦時期にはおそろしく急速に廃れ、ゲートボールとして姿を変えて見事に復活を遂げるのは戦後のことである。かつて男女がともに楽しんだこの競技は今では主に高齢者スポーツとして全国に普及している。



クロツケーに興じる人々たち

三郎の技量の上達は驚くべきもので、彼に次ぐのが自分だが、その実力の差は歴然としている。だからどんなペアにしても二人は敵同士となるのだが、平生組は三郎組の前には全く歯が立たない。「一昨日来余は拾参戦式勝のみ」。こう負け続けること「心中平かならず。三郎が勝に乗じて嘯く態度には愛児とはいえず情概の気を生ぜざる能はず。腕の争は口の戦と変じ、互に口角泡を飛ばす」。接戦となつて三郎が平生の打球を打ちとばすや、平生の「怒怒の気胸に迫るを禁ずる」ことができない。ところが平生が妻のスズ子とペアを組むと、三郎の打球はスズ子の球にはヒットしない。これは

## 2014年度から 二つのコースを新設します!

### フロントランナー・コース

フロントランナーとは「先頭を走る人」、世界をリードする人材の育成を行います。

### アドバンスト・コース

#### 新コースのポイント

- ・人創りの理念 「世界に通用する紳士たれ」を現実のものとしします。
- ・キーワードは 「サイエンス」「グローバル」
- ・将来のキャリアビジョンに 向かっての学びです。

甲南のフロントランナー構想は、サイエンス、グローバルをキーワードに、世界の未来を創り上げる「フロントランナー」を育成することが目標。甲南独自の教育プログラムの理数特別実験、グローバル・スタディ、キャリア・スタディを充実・強化しつつ、新たに「フロントランナー」「アドバンスト」の2つのコースを新設します。このコース制は、将来に対する目標をより明確化した学びを備えており、「多様な進路実現」と「国際社会で活躍・貢献できる人材の育成」をキーワードに新たな教育を展開していきます。

新コースの詳細はHPをご覧ください <http://www.konan.ed.jp/granddesign2014/index.html>

## 『平生鈞三郎日記』 第一巻～第七巻を刊行中です。

『平生鈞三郎日記』第一巻～第七巻を刊行しました。11月には、第八巻を刊行予定です。定価は各巻20,000円(税抜)ですが、甲南学園関係者の方(卒業生、在学生、ご父母、教職員等)は、10,000円(税抜)でご購入いただけます。

ご注文・ご購入に関するお問い合わせ

甲南大学生協書籍部 Tel.078-441-7901 Fax.078-441-7915



がむしゃらに勉強するも成績は相変わらずマイチ。

産学連携サロンで演壇に立つチャンス到来!しかも大絶賛!

有機化学の面白さに開眼。発想が問われる学問に夢中になる。



前期試験で全学年39人中39番に!あまりの悲惨な結果にショック(T\_T)

猛勉強スタート!学年トップの友人と休日もマイラボに通って学ぶ。



せはた しろう  
勢籙 志郎さん  
大学院  
フロンティアサイエンス研究科  
生命化学専攻 1年次  
《高校生のボク》  
受け身で過ごした3年間。  
モチベーションも  
低かった(;;)

## My high school days

# ボクとワタシの成長記録

The First Graduating Class of FIRST

医療中核施設や医療関連企業・研究機関などライフサイエンス分野の最先端が集積した神戸医療産業都市(神戸ポートアイランド)。2009年、この地に甲南大学フロンティアサイエンス学部(FIRST)が設立されました。徹底した少人数教育と興味に応じて自由に選べるカリキュラムのもと、バイオ(生物)とナノ(化学)、さらに融合領域である「ナノバイオ」を学んだ学生たちは、どのように成長したのでしょうか。大学院生となったお二人にFIRSTでの学びとご自身の歩みについて語っていただきました。

## 2009

1年次  
1年次

なぜか自分は「成績は絶対に下のほうだ」と思い込んでいた。淡路島出身で下宿生だから両親の経済的負担は決して小さくない。「高校時代とは気持ちを入れ替えて、しっかりと勉強しなっちゃ」そう心に誓っていた。何よりホッとしたのは、講義が面白かったこと。「構造有機化学」の授業を受けたとき「あ、これなら自分も付いていける!」と思った。先生方が基礎から丁寧に教えてくれるから、学力に自信のない自分でも大丈夫だ。

1年次は、先生の研究室に入り浸っていた記憶が残っている。わからないことがあると研究室を訪ねて、わかるまで教えてもらう日々。先生が学生時代の話をしてくださったり、私も悩みを相談したりと本当にお世話になった。

11月の「摂津祭」では、1年生全員で岡本キャンパスに綿菓子屋を出店!リーダーを補佐する役割を任せられ、みんなががんばったことも忘れられない思い出だ。



自分は成績が悪いに違いない。なぜかそう思い込んでいた。

先生の研究室へ通う日々。優しい先生が、心のよりどころだった。

学園祭で綿菓子屋さんを出店。キャンパスライフを楽しむ!



おかだ ありさ  
岡田 亜梨沙さん  
大学院  
フロンティアサイエンス研究科  
生命化学専攻 2年次  
《高校生のワタシ》  
故郷の淡路島で過ごすのんびりした女子高生。  
成績には自信なし(-\_-)

## My high school days

## 2010

2年次  
2年次

一生懸命勉強しても、成績はなかなか上がらなかった。でも、コツコツと努力する姿を先生方は見ていてくださった。6月開催の「産学連携サロン」Part 2 FIRST/FIBERにおける教育研究の紹介と産学交流会で学部生代表として発表してみたいかと声をかけてくださったのだ。テーマは、「FIRSTでの1年」研究者を夢見て。1年次の挫折経験を正直にユーモアも交えてスピーチしたら驚くほど大きな拍手ももらった。「僕だって、やればできる!」ちよつと自分を見直した瞬間だった。

実験にもがむしゃらに取り組んだ。1年次で単位の取れなかった有機化学をもう一度履修してみると、高校時代とはまったく異なる楽しさが見えてきた。そうか、有機化学って発想を問う学問なんだ!暗記する学問じゃないんだ!化学がますます好きになった。

3年次になると研究室に仮配属され、専門的な実験に取り組むことになる。僕は、生物有機化学研究室(前期)と分子設計化学研究室(後期)に所属。9月には、「第5回バイオ関連化学合同シンポジウム」(茨城県つくば市)で、前期の研究成果をポスター発表することになった。テーマは、「代謝産物による細胞機能の活性化・合成アナログを利用した酵素活性化機構の解明」。3年次生に学会発表のチャンスが与えられるなんて、そうそうあることじゃない。緊張もしたが、挑戦できる幸運に胸が高鳴ったのを覚えている。いざ発表してみると、実験中は考えもし

1学年が進んで授業は、ますます面白くなった。一番印象に残っているのは、「ナノバイオラボ1A」の授業でペプチド合成と出会ったこと!その後も一貫してペプチドを研究することになるなんて、当時は想像もしていなかったけれど自分で物質をデザインして合成・分析するプロセスに感動したことを覚えている。教科書で学んだ現象を、この目で確かめられる実験にも夢中になった。

振り返れば、1年次からずっと成績は上位だった。自分の能力に自信がもてなかったことが成長のバネになったのかも。でも、それ以上にマイラボで友人たちと一緒に勉強できる環境がモチベーションアップにつながったと思う。予習復習に集中したり、疲れたらちよつとおしゃべりしたり、わからないことがあれば議論したり。リラックスできて、なおかつ知的刺激を受けられるマイラボは、今でもFIRSTの中で一番好きな場所だ。

このころから、少しずつ自分の方向性が見えてきた。基礎研究よりも実用化を視野に入れた応用研究に興味があり、その成果が社会にどのように生かされるのかを考えたかった。そんな動機から前期は「生命高分子化学研究室」に、後期は「バイオ計測化学研究室」に所属し、日々の実験に夢中で取り組んだ。このまま何事もなく過ぎると思っていたら...

夏のある日、先生に突然「飛び級試験を受けてみないか?」と声をかけられる。え?飛び級?私が?4年次を飛ばして大学院に進学するってこと?思ってもみな



「ナノバイオラボ」の授業でペプチド合成と出会い、興味をもつ。

マイラボの環境をフル活用。気がつけば、成績は常にトップクラス。

自分の能力を  
とことん発揮。



大学院修了後は、先端化学と人々をつなぐ懸け橋として活躍したいと思っています。甲南大学は、僕の能力を引き出してくれた最高のホームグラウンド。学会や「サイエンス・インカレ」など成長の機会を与えていただき、プレゼンテーション力を養えたことにも感謝しています。

化学の面白さを伝えるポクに。



学長表彰を受けて学部を卒業し、いよいよ大学院へ。

医薬や食品などの応用を視野に入れながら研究に取り組む。

甲南90周年栄誉スカラシップの奨学生に選ばれる!

忙しい研究の傍ら、大学院の講義も受講。進学の意志を固める。

「サイエンス・インカレ」や「農芸化学会」などでも成果を発表。



バイオ関連のシンポジウムで研究成果をポスター発表。初の学会発表だった。

「サイエンス・インカレ」でも発表し、日本曹達賞の栄冠に輝く。

トップ2位の成績でマイラボ奨学金を贈られる。奇跡の大逆転だ!

なかった観点からさまざまな質問を受け、自身の視野も広がった。

翌年2月には、自然科学分野を学ぶ全国の学生が自主研究の成果を競う「第1回サイエンス・インカレ」(東京都江東区・日本科学未来館)にも参加。ポスター発表の内容が認められ、何と「日本曹達賞」を受賞した。

このころになると勉強そのものが面白くて成績は気にならなくなっていた。だから後期試験後にマイラボ奨学金が授与されたときは心底びっくり!マイラボ奨学金がもらえたということは、上位2名に入る成績を取ったということだ。この僕が?学年最下位だった僕が?!驚きながらも「やればできる」という達成感を感じた瞬間だった(^\_^)

生物有機化学研究室で実験に集中する日々。研究の大変さも苦しさも面白さも味わった。忙しい日々だったが、うれしいことも数多くあった。5月には、甲南90周年栄誉スカラシップ(平生記念甲南栄誉奨学金)の奨学生に選出された。4年次になると大学院の講義を受講できることも魅力だった。実験の合間を見つけては興味のある講義を受講して専門知識を深めた。

そして研究を続けるために大学院への進学を決意。3月には「第2回サイエンス・インカレ」で、「生物が極限環境で代謝産物を複合的に用いる意義」についてポスター発表を、「農芸化学会(東北大学)でもグループで口頭発表を行った。

学長表彰という名誉を与えられて学部を卒業(最下位だった僕が!)。大学院では、これまでのテーマを深めながら酵素活性を上げる代謝産物(老廃物)の構造と機能を研究中だ。酵素の活性速度を上げることに成功すれば、酵素を使った、がん検診キットなどへの応用も可能になるかもしれない。さまざまな分野で人々に貢献できる研究に携わっていると思うと、ちょっと誇らしい。

将来の進路は、まだ完全には決めていない。研究者としての道に魅力を感じる一方、もっと異なる世界に挑戦してみたい気持ちもあるからだ。たとえば、理系の知識をわかりやすく伝える仕事にも大きな魅力を感じている。じっくりと自分を見つめて学びを深め、可能性に挑戦したい。

# FUTURE

## 2013 大学院修士1年次 大学院修士2年次

企画力を土台に  
活躍するワタシへ。



FIRSTでは、多くのチャンスに恵まれ、自分でも驚くほど成長できたと感じています。自分でテーマを見つけ、実験内容を計画して実行する...研究の過程を通じて身につけた企画力は、就職活動でも高く評価されました。何事にも自信のなかった入学当時の自分が嘘のようです。

チャンスを  
生かして成長。



第一志望だった化学品専門商社から内定!企画開発の仕事をめざす。

集大成となる修士論文に夢中。甲南大生としての日々を大事に過ごしたい。

## 2012 4年次 大学院修士1年次<飛び級で大学院へ>

「バイオ計測化学研究室」に所属し、「酵素活性により核酸四重鎖構造を変化させる設計ペプチドの創成」をテーマとした研究を進める。生体内では、さまざまな機能や特性をもった生体分子(タンパク質や核酸など)が相互作用することによって生命活動が営まれている。人工ペプチドを利用した細胞内機能の制御システムを構築し、酵素やタンパク質の発現を制御できれば、医薬品や食品での応用も可能になるはず。2年次でペプチドに出合ってから、探究したかったテーマだけにやりがいを感じた。

12月には、第29回関西地区ペプチドセミナーで研究成果をポスター発表する機会にも恵まれ、奨励賞を受賞!飛び級して大学院に進学したため、先輩の指導など慣れないことも多かったものの成長を実感できた1年間となった。

「バイオ計測化学研究室」でペプチド工学の最先端を研究する。

関西地区ペプチドセミナーでポスター発表に挑戦。奨励賞を受賞!



自分の興味が少しずつ明確に!社会に貢献する応用研究に進みたい。

「飛び級試験を受けないか?」...先生のことばにびっくり!

## 2011 3年次 3年次

とにかく時間をやりくりして勉強した。試験1か月前には、朝8時から夜9時までで大学で勉強し、帰宅後も午前3時まで机に向かった。自信のなかった私が飛び級試験に挑戦しようとしているなんて嘘みたい。私でいいのか?と信じられない思いを抱えて全力で取り組んだ日々。合格の知らせを受けたときは、「やったー!」と心の中で叫んだ。

かつた提案には驚いたけれど、うれしかったのも事実。大学院で研究を深めることができるうえに、修士課程に進んでも1年間だけの経済的負担ですむ。両親にそのことを話すと「自分のやりたいことをやりなさい」と快諾してくれ、私の心も決まった。すぐさま先生に「挑戦します!」と宣言。その日から、2月の飛び級試験に向けた猛チャージを開始した。

# 新任教職員紹介

よろしくお願いたします！(平成25年9月1日現在)

# 退任教職員紹介

長い間ありがとうございました

文学部



服部 正  
准教授  
【専門分野】美術史・芸術学

マネジメント創造学部



寺内 衛  
准教授  
【専門分野】科学・技術論、科学・技術教育

法科大学院



板倉 集一  
教授  
【専門分野】知的財産法

理工学部  
知能情報学部事務室



小野 諒佑  
専任職員  
【資格・特技】車球・お菓子作り

教務部



横井 星帆  
専任職員  
【資格・特技】バスケットボール

財務部



東里 紗  
囃託職員  
【資格・特技】旅行の計画・サイクリング

理工学部



武田 銅二郎  
講師  
【専門分野】分子遺伝学・細胞生物学

マネジメント創造学部



伊藤 健顕  
講師  
【専門分野】会計学・財務会計

高等学校・中学校



平田 礼生  
専任教諭  
【担当】理科

管財部



鼻野 香菜子  
専任職員  
【資格・特技】図書館司書・陸上

国際言語文化センター  
広域副専攻センター事務室



元井 美沙  
囃託職員  
【資格・特技】コスプレ・料理

財務部



足立 知子  
囃託職員  
【資格・特技】保育士・旅行

経済学部



石田 功  
教授  
【専門分野】ファイナンス論

マネジメント創造学部



RICHARDSON Ryan A.  
特定任期教員  
【専門分野】ENGLISH/APPLIED LINGUISTICS

高等学校・中学校



DEVINE James P.  
外国人英語担当契約教員  
【担当】英語科

人事部



箕浦 雄大  
専任職員  
【資格・特技】野球・料理

学園振興募金室



高岡 睦  
囃託職員  
【資格・特技】保育士・洋裁

国際交流センター事務室



山本 シャーリ  
囃託職員  
【資格・特技】コナコヒー栽培

経済学部



春日 教測  
教授  
【専門分野】産業組織論

マネジメント創造学部



WONG Aerick  
特定任期教員  
【専門分野】ENGLISH/APPLIED LINGUISTICS/CALL

高等学校・中学校



RAICHURA Trevor Raj  
外国人英語担当コーディネーター  
【担当】英語科

入試事務室



村上 雅亮  
専任職員  
【資格・特技】バスケットボール

広報部



田内 碧  
囃託職員  
【資格・特技】社会福祉士・パン作り

図書館



岩田 季恵  
囃託職員  
【資格・特技】図書館司書・読書・旅行

マネジメント創造学部



杉本 喜美子  
准教授  
【専門分野】開発経済学・国際金融論

国際言語文化センター



谷守 正寛  
准教授  
【専門分野】日本語教育

経営企画室



天羽 麻由子  
専任職員  
【資格・特技】フランス語

学生部



森 沙織  
専任職員  
【資格・特技】なごなた

カウンセリングセンター  
人間科学研究室事務室



妻鹿 友美  
囃託職員  
【資格・特技】水泳・ダイビング・旅行

理工学部  
知能情報学部事務室



武田 京子  
囃託職員  
【資格・特技】ピアノ・ショッピング



上村 くにこ  
教授  
【文学部】

退職してから5カ月目を迎ようとしているのにな、今日もガッコに行かなくていいなんて、なんて嬉しいんだろう」と朝起きるたびに感謝の喜びが湧きあがってきます。いま力をいれているのは、この5月に設立した「想像文化研究組織」というNPOを運営しながら死生学の臨床的研究をすることです。KORECの協力を得て、甲南生と近隣の高齢者を結びつけたいと熱望しています。違った形で学生さんと交流できるのは本当にうれしいことです。



古川 顕  
特任教授  
【経済学部】

甲南大学では7年間お世話になった。私の長い教育・研究期間のなかで、最も充実した期間だったように思う。良い学生諸君に恵まれ、良い同僚に恵まれ、よく気の付く思いやりのある職員の方々にも恵まれた。わずか7年の間に、2冊の著作を出版することができたのは幸せだった。経済学部の伝統的な行事インナーセミナーで、私のゼミの2チームがともに優勝を飾ったのも忘れられない。それは振り返ってみると、人生における一つの達成感に比肩するよう思える。



太田 雅久  
特命教授  
【マネジメント創造学部】

自己の知識の深さとその範囲の狭さに苛まれているとき、謙虚に学生とともに学問をするという機会が与えられたことは幸いであつた。西宮キャンパスの四年間はここにと尽きる。そして、分野に縛られず学問をすることの意義を少しでも体得できた四年間でもあった。それは今後の活動に生きると思っている。また、一時たりとも学生との学びを忘れたことは、教育に携わるものとしての責務を考えると大きな機会であつた。それは振り返ってみると、人生における一つの達成感に比肩するよう思える。



松本 淳子  
専任職員  
【管財部】

学生部を皮切りに就職指導部(現キャリアセンター)、法学部事務室、図書館、管財部と40数年の長きに渡り甲南学園にお世話になりました。その間には学園封鎖や阪神淡路大震災等もあり、この異常事態を皆で力を合わせて乗り越えてきたことも今は懐かしい思い出となっています。今後も皆様の一致協力の下、甲南学園の益々のご発展をお祈りしております。



永幡 光生  
専任職員  
【人事部(副理事長付)】

自分が歩んだ42年という時の刻みに少しの驚きと小さな安堵感があります。世の中は有為転変であり、止まることはないという言葉のとおり、変わらないと思っていたものが変わり、動かないと思っていたものが動くということがダイナミックにつぎつぎと起こりました。甲南学園は、有為転変の流れにあって、志を変えないという「従流志不変」という教訓で進んでほしいと願っています。お世話になった多くの方々に心から感謝申し上げます。有難うございました。



鶴身 潔  
教授  
【経営学部】

甲南大学では、42年間の永きにわたる在職で、およそ経営学部の歴史とともに歩んできました。若き20-30歳代は、甲南特有のアウトホームでリベラルな学風に浸り、40歳代で、学部のみならず大学に及んだ様々な苦難に遭遇して立ち向かい、50歳代になって、ようやく解放されて自分のベースを取り戻し、60歳代には、改めて多事多端な職域に身を捧げました。数多くの方々と出会い、ご支援を得た、幸せな甲南教育人生でした。



David W.Rycroft  
教授  
【文学部】

甲南が大学となった当時の著名な研究者書田文章は、ケンブリッジ大学のP.R.Leavisの下で研究していた若い詩人で研究者であったD.J.エントライトを大学へ迎えた。彼は3年間留めた。それから30年後、増谷好弘教授が私を英文科へ迎えてくれました。もし、書田がエントライトに求めた同僚像を描いていたなら違っていたかも知れない。甲南の初めての専任外国人教員として採用されてから30年が経ちました。私の課した役割は英語の文献への貢献でした。数々の本や論文、入試問題から小冊子、パンフレットに至るまで私のスタイルの表現を見つけていただけることだと思います。ESSの顧問も、KIECの参与を務めました。研究対象は明治のジェイクスピアと川上音二郎、真似です。これまで甲南大学が与えてくれた機会の数々に感謝・敬意の意を込めて。



原田 登美  
教授  
【国際言語文化センター】

22年間を甲南大学で過ごしました。最も鮮烈な思い出は1995年の阪神淡路大震災でした。1号館は破壊されグラウンドには仮校舎がずらりと建ち並びました。一時はもう往年の甲南大学は見られないのだと諦めました。しかし、甲南大はかつてのキャンパスを塗り替えて見事に再生しました。あの時の力強さを今後も発揮し、様々な分野で活躍する人材が育つのを期待しています。長い間、ありがとうございました。



南里 章二  
教諭  
【高等学校・中学校】

41年(学生時代を含めると53年)にわたる甲南での在職中、卒業生の皆様には多大なご支援をいただきありがとうございました。とくに御忙しい中を遠方より「最後の授業」に駆けつけてくださった数多くの卒業生の方々に心より御礼申し上げます。卒業生の皆様の将来が明るいものであるよう祈っています。



中山 弘隆  
教授  
【知能情報学部】

39年の永きにわたりお世話になり、有り難うございました。時代の流れに沿って、理学部応用数学科、理工学部情報システム工学科、知能情報学部知能情報学科と所属名は変遷しましたが、学生の皆さん、教職員の皆さんと共に充実した教育・研究の日々を送ることができ感謝しております。今後も学園全体が「しなやかなシステム」としてますます発展していけることを祈っております。



水野 健一  
教授  
【理工学部】

本理学部に入学してから、今年3月教員として退職するまで、ちょうど半世紀に亘りお世話になりました。18歳人口が増加し、二つ目の山を下りかけたところまでを経験したことになります。その間の1995年に阪神淡路大震災が発生し、大学では大半の校舎が崩壊するなど、未曾有の被害を被りました。誰でも自分のことで手一杯のそんな時期に、ボランティア活動に動んだ例を幾つも見聞しました。損得抜きで他人のためにがんばる。それは甲南生には、日常的に行われているように思えます。そんな気持ちが嬉しく、また、尊いですね。

石黒 順平 教授  
【理工学部】

昭和48年に当時の理学部に就任し、この3月末に退職いたしました石黒でございます。学部・院生時代の6年間を合わせて、46年間の長きにわたり甲南大学関係者の皆様には大変お世話になりました。この間、学部・研究科を通して多くの甲南大生と体験をともにすることが出来たことは私にとって忘れがたい思い出です。大学における教育と研究は車の両輪です。どちらが欠けることもなく、甲南大学が未来に向かって力強くまっすぐに進んでいくことを心より願っております。

千葉 純子 専任職員  
【図書館】

就職してから大半を図書館でお仕事させて頂き、大変お世話になりました。特に最後の数年間は、未熟ながらレファレンス業務に従事し、カウンターで先生方や学生の皆様と身近に接触させて頂く機会を得、よい経験となり、とても楽しい思い出となりました。いろいろお聞き頂きました事深く感謝いたしております。本当にありがとうございました。甲南大学のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

このほか、

桐畑 哲也 准教授  
【マネジメント創造学部】

大瀬戸 豪志 教授  
【法科大学院】

菅 理華  
【国際交流センター事務室】

森田 文美  
【広報部】

岡部 幸子  
【カウンセリングセンター  
人間科学研究室事務室】

坂本 真須美  
【理工学部 知能情報学部事務室】

も退職いたしました。



# 「オール甲南の集い(ホームカミングデー)」を 11月23日(祝・土)に開催します。



Tadao Ando Architect & Associates Photo by 林景澤

**特別講演会** 時間 13:00~16:00  
場所 岡本キャンパス甲友会館

講演者：建築家 **安藤忠雄氏**  
東大寺別当 **筒井寛昭氏**  
(奈良甲南会会長、昭和43年文学部卒)

ほかにも、同期会(昭和47年・昭和57年) 体育会OB・OG会会長会議などの開催を予定。  
OB・OGのみならず、現役の学生・生徒をはじめ多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。  
詳しくは、甲南大学同窓会 <http://www.e-konan.net/> をご参照ください。

## 昭和47年卒業同期会のご案内

日時 11月23日(祝・土)  
(オール甲南の集い同日)  
場所 甲南大学内  
申込 10月末日までに、甲南大学同窓会事務局までメールまたはFAXでご連絡ください。

E-mail jimui@e-konan.net FAX 078-811-9366

## 五七会のご案内(昭和57年卒業同期会)

日時 11月23日(祝・土)  
(オール甲南の集い同日)  
場所 甲南大学内  
申込 10月末日までに、甲南大学同窓会事務局までメールまたはFAXでご連絡ください。

E-mail jimui@e-konan.net FAX 078-811-9366

## 甲南大学体育会OB・OG会会長会議開催(主催:甲南摂津会)

日時 11月23日(祝・土)  
(オール甲南の集い同日)  
9時45分開始

場所 3号館7階 第1会議室

## 甲南大学の教員と卒業生が執筆した 新刊レビュー

<p><b>ポール・オースター</b> [増補改訂版] 秋元孝文 [文学部教授]ほか著 彩流社 ¥2,500(税別)</p>	<p><b>要素111の新知識</b> 第2版増補版 藤井敏司 [フロンティア サイエンス学部教授]ほか著 講談社ブルーバックス ¥1,250(税別)</p>	<p><b>プラットフォーム時代の イノベーション</b> クロスドから オープンビジネスモデルへの進化 中田義啓 [経営学部教授]著 同文館出版 ¥2,500(税別)</p>	<p><b>プラットフォーム時代の イノベーション</b> クロスドから オープンビジネスモデルへの進化 中田義啓 [経営学部教授]著 同文館出版 ¥2,500(税別)</p>	<p><b>教職に関する基礎知識</b> 古川治 [教職教育センター特任教授] ほか編著 八千代出版 ¥2,200(税別)</p>	<p><b>岩波 生物学辞典</b> 第5版 本多大輔 [理工学部教授]ほか著 岩波書店 ¥13,000(税別)</p>
<p><b>ポスト・コフートの 精神分析システム理論— 現代自己心理学から 心理療法の実践的感性を学ぶ</b> 富樫公一 [文学部教授]編著 誠信書房 ¥3,000(税別)</p>	<p><b>規制改革30講— 厚生経済学のアプローチ</b> 春日敦測 [経済学部教授]ほか著 中央経済社 ¥3,400(税別)</p>	<p><b>現代ドインを 知るための62章</b> 竹田賢治 [1970年文学部卒]ほか著 明石書店 ¥2,000(税別)</p>	<p><b>重点解説平成25年版 法人税申告の実務</b> 鈴木基史 [大学院社会科学部 会計専門職専攻教授]著 清文社 ¥3,600(税別)</p>	<p><b>地方にこもる若者たち— 都会と田舎の間に出現した 新しい社会</b> 阿部典大 [文学部准教授]著 朝日新聞出版 ¥760(税別)</p>	<p><b>やさいい法人税 平成25年度改正</b> 鈴木基史 [大学院社会科学部 会計専門職専攻教授]著 税務経理協会 ¥2,400(税別)</p>
<p><b>植物のあつたれな生き方 を全うする驚異のしくみ</b> 田中修 [理工学部教授]著 幻冬舎新書 ¥760(税別)</p>	<p><b>お手本は奥の細道 はじめて作る俳句教室</b> 堀見恵介 [高等学校・中学校教諭]著 すばる舎リンクエージ ¥1,300(税別)</p>	<p><b>愛と欲望のナチズム</b> 田野大輔 [文学部教授]著 講談社 ¥1,800(税別)</p>	<p><b>彼女の狂詩曲 [種々沙羅華の課外活動]</b> 橋本伸司 [1979年理学部卒]著 ハルキ文庫 ¥667(税別)</p>	<p><b>近畿中学新人テニス大会</b> 団体優勝(角谷・数田・高尾・榎原・四宮・岡本・武本) ※近畿優勝校として第1回全国選抜大会に於いて、ベスト8</p>	<p><b>第95回全国高校野球選手権記念大会</b> 兵庫大会 ベスト16 ※43年ぶり</p>
<p><b>経営史叢書第8巻 アンソフ</b> 藤本佳和 [大学院社会科学部 会計専門職専攻教授]編著 文眞堂 ¥1,500(税別)</p>	<p><b>財務会計論 I 基本論点編 第7版</b> 河崎照行 [大学院社会科学部 会計専門職専攻教授]ほか編著 中央経済社 ¥5,200(税別)</p>	<p><b>財務会計論 II 応用論点編 第7版</b> 河崎照行 [大学院社会科学部 会計専門職専攻教授]ほか編著 中央経済社 ¥4,400(税別)</p>	<p><b>兵庫県中学新人戦</b> 優勝</p>	<p><b>テニス部</b> 近畿中学新人テニス大会 団体優勝(角谷・数田・高尾・榎原・四宮・岡本・武本) ※近畿優勝校として第1回全国選抜大会に於いて、ベスト8</p>	<p><b>野球部</b> 第95回全国高校野球選手権記念大会 兵庫大会 ベスト16 ※43年ぶり</p>

### 「大学生の理想のタブレット」を マネジメント創造学部生が 東京の企業に提案!

7月1日(月)、本学マネジメント創造学部(CUBE)生13人が、井上明教授の引率で東京へ、日経BP社の日経パソコン編集部において、「大学生の理想のタブレット」を企業の方々に提案しました。

これは、井上教授が教える同学部の授業「ビジネス研究プロジェクト」の一環で行われたもので、日経BP社のほか、富士通(株)、日本電気(NEC)の商品開発や広報担当の方々などが出席してくださいました。

第一線で働かされている方々を前にして、学生たちは緊張した面持ちでしたが、動画や音響など工夫を凝らしたプレゼンテーションにより、「学生は、就職活動でこんなタブレットを使いたいんです!」「学生が使いやすいのはこのサイズ!」など、企業の方々は「提案をより具体的に見せるため、実際の大きさの模型やCMまで制作していたのは素晴らしい!」「企画に新規性があり、我々の業務にも参考になる点があった!」などの賛辞と親身な指導を賜りました。

プレゼンテーションと質疑応答の後、学生たちは企業の方々から、最新のタブレット開発現場のお話を伺う貴重な機会を得ました。

### 体育会 戦績報告 (敬称略)

みなさんのファイトに  
心より拍手をお送りします。

**【弓道】**  
住吉大社全国弓道大会(5月)  
女子団体A・岩山穂乃花・文1・春木かなえ・文3、堀川早紀・文4が優勝  
男子団体A・林拓弥・経済2、井出雅久・経済2、恒松洋音郎・法4が優勝  
男子団体B・田中彰太・経済1、伊藤伸幸・経営3、帆先浩・知能情報3が第3位  
男子個人で田中彰太(経済1)が第3位、恒松洋音郎(法4)が第4位

**【硬式庭球】**  
関西学生新進テニス選手権大会(3月)  
下向将志(経済4)、瀬古悠貴(法3)組がベスト4  
関西学生春季テニス選手権大会(5・6月)  
上原伊織(法3)が男子シングルスで優勝  
沼野孝彰(経済4)が男子シングルスでベスト4  
男子ダブルスで下向将志(経済4)、瀬古悠貴(法3)組がベスト4

**【ゴルフ】**  
関西学生男子連盟杯(5月)  
森祐紀・文3が第2位タイ  
関西学生男子春季1部校対抗戦(6月)  
1部第3位  
増本有作(文4)、頼重侑太(経営4)、森祐紀(文3)、出光祐大(法3)、望月森(経済2)、松田直也(経済2)、井上敬太(文1)

**【自動車】**  
第1回全関西学生ターボトライアル選手権(4月)  
岡本太(経営3)が個人優勝、団体優勝

**【漕艇】**  
第4回西日本大学レガッタ(6月)  
Aチーム(仲嶋嶺・法3、森本起生・知能情報4)が男子ダブルスカルで優勝  
男子舵手付ペアで総合第2位

**【卓球】**  
関西学生卓球連盟春季リーグ(5月)  
男子1部第1位 ※28年ぶり

**【硬式野球】**  
阪神大学野球連盟  
1部第6位(4勝9敗)入替戦2勝1敗(1部残留)  
個人賞(ベストナイン)・三木大輝(経営3)

**【準硬式野球】**  
近畿六大学春季リーグ戦(3・4月)  
優勝

**【馬術】**  
関西学生総合馬術大会(6月)  
吉井崇師(経済3)が総合馬術競技で優勝  
※2連覇

**【バレーボール】**  
関西学生バレーボール連盟春季リーグ戦(4・5月)  
1部優勝  
最優秀選手賞・セッター賞・濱嘉宏(主将・経済4)、リベロ賞・山口智也(文4)、スパイク賞・水野聡(法3)、新人賞・加藤克貴(法1)、最優秀監督賞・演習場治監督

**【ライフル射撃】**  
西日本学生ライフル射撃選手権大会(6月)  
10m DDP 60Mで西田寛(法3)が優勝  
10m DDP 30Mで山本佳奈(経済2)が第7位、肥田友紀子(知能情報4)が第8位  
10m DDP 40Mで大谷秀(知能情報3)が第2位、副島隆志(知能情報2)が第5位

**【陸上競技】**  
第90回関西学生陸上対校選手権大会(5月)  
女子走高跳で山本有希子(文3)が優勝  
女子100mで寺井美穂(経営2)が第3位

**【日本拳法】**  
第14回西日本学生拳法個人選手権大会(6月)  
男子段外の部で加藤達郎(知能情報2)がベスト8

**高校**

**【馬術部】**  
関西高等学校馬術競技新人戦  
団体優勝(伊藤隆・安田公寛)

**【テニス部】**  
京都招待テニス選手権大会  
ダブルス優勝(田中聡介・永田光祖)

**【ゴルフ部】**  
県高体連新人戦  
団体準優勝、個人の部 第3位 戸高大地  
関西高校ゴルフ選手権大会  
準優勝 戸高大地(3月の全国大会出場権獲得)

**【野球部】**  
第95回全国高校野球選手権記念大会  
兵庫大会  
ベスト16 ※43年ぶり

**中学**

**【テニス部】**  
近畿中学新人テニス大会  
団体優勝(角谷・数田・高尾・榎原・四宮・岡本・武本)  
※近畿優勝校として第1回全国選抜大会に於いて、ベスト8

**【アーチエリー部】**  
のじぎく林室内大会  
個人優勝 米田達哉 準優勝 山邑祥治朗  
加東オープン室内大会  
中学生の部 優勝 山邑祥治朗

**【ラグビー部】**  
兵庫県中学新人戦  
優勝

2013 Sep. NO. 44

# 甲南Today

発行日/2013年9月30日  
発行/甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1  
TEL (078) 431-4341 (代)

PRESENT 抽選で20名様に!

## 甲南オリジナル ハンドタオル

今治タオルを使用した肌ざわりの良いハンドタオル。  
ご希望の方は同封のアンケートはがきにてご応募ください。

応募締切:2013年11月29日到着分まで